

授 業 科 目		講 師 名
基礎分野	生物学	鈴木 浩之
	化学	伊藤 博
	基礎数学	清水 怜
	臨床歯科英語	真船 えり
	基礎国語	近藤 正臣
	心理学(人間行動学)	岩井 美路子
	倫理学	半田 栄一
専門基礎分野	解剖学	松尾 智子
	組織発生学	中村 雅典
	生理学	大貫 芳樹
	生化学	田中 秀樹
	口腔解剖学	中村 雅典
	歯牙解剖(歯型彫刻)	松尾 智子
	口腔生理学	大貫 芳樹
	病理学(口腔病理学)	美島 健二
	微生物学(口腔微生物学)	梅本 俊夫
	薬理学(歯科薬理学)	島田 明美
	口腔衛生学(1)	平田 幸夫
	口腔衛生学(2)	花田 信弘
	衛生統計	磯谷 美重
	衛生学・公衆衛生学	岡 仁
	衛生行政・社会福祉学	阿部 智
栄養学	里見 節子	
専門分野	歯科衛生士概論	荒川 浩久
	医療倫理学	半田 栄一
	歯科臨床概論	荒川 浩久
	保存修復学	小野 京
	歯周療法学	吉田 拓正
	歯内療法学	本間 秋彦
	歯科補綴学	澤田 智慈
	口腔外科学(麻酔学)	濱田 芳樹
	小児歯科学	久保田 守
	歯科矯正学	野嶋 邦彦
	歯科放射線学	五十嵐 千浪
	高齢者歯科学	深山 治久
	障害者歯科学	宮城 敦
	摂食・嚥下機能学	宮城 敦
	歯科予防処置論Ⅰ	佐々木 真理子 鬼塚 由希子
	歯科予防処置論Ⅱ	
	歯科予防処置論Ⅲ	
	歯科保健指導論Ⅰ	野原 早苗 橋本 綾乃
	歯科保健指導論Ⅱ	
	歯科保健指導論Ⅲ	
	栄養指導	里見 節子
	歯科診療補助論Ⅰ	大森 理乃 清水 恵里菜
	歯科診療補助論Ⅱ	
	歯科診療補助論Ⅲ	
	臨床検査法	井上 孝
	社会保険	上條 英之
臨地・臨床実習Ⅰ		
臨地・臨床実習Ⅱ		
必修及び選択分野	一般教養(華道・書道)	三薺 洋子 三浦 ノリ子
	コンピューター	板倉 紀代子
	看護概論	志村 央子
	秘書実務(接遇マナー)Ⅰ	黒川 亜紀子
	秘書実務(接遇マナー)Ⅱ	
	医療事務Ⅰ	派遣
	医療事務Ⅱ(選択)	
	介護技術	石川 よし子
	課題(卒後)研究	佐々木 真理子

担当科目	生物学	講師	鈴木 浩之
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期 1学年 <u>前期</u> 後期
一般目標(GIO)	生物に共通する様々な性質や仕組みを学び、医療分野に携わる職業人としての科学的知識の基礎を身に着ける。また生命の複雑性・神秘性を理解することにより、進化の頂点に位置するヒトに対する畏敬の念を育て、豊かな人間性を備えた専門職としての自覚を育成する。		
授業概要	生物全般に共通する特性を説明する一方、ヒトという極めて特殊な存在である私たち自身にまつわる話題や問題を取り上げることで、「生物学」を身近で、有用性を感じる講義にしたいと考えている。		
学習方法	講義	成績評価の方法	筆記試験 90% 出席状況 10%
教科書	最新 歯科衛生士教本 生物学		
実務経験	なし		
授業計画			
No	授業項目	到達目標(SBOs)	
1	宇宙と生命の歴史	宇宙誕生から人類の誕生までの138億年の歴史の概要を説明できる。	
2	進化の頂点にいるヒトの特徴	二足歩行、脳の発達、顎の退化、痕跡器官等をとおしてヒトの特徴を説明できる。	
3	生物の分類と学名	多様な生物を分類する考え方を学び、学名とは何かについても説明できる。	
4	生物とは何か	生物と無生物の違いを考え、「細胞」「代謝」「自己複製」が生物の特性であることを説明できる。	
5	細胞の構造と働き	生命活動の基本単位である細胞の様々な仕組みについて説明できる。	
6	死とは何か	代謝の停止である死について、3徴候死、脳死、臓器移植をテーマに学び、自分なりの意見をまとめる。	
7	子孫を残す仕組み	減数分裂の過程と意義を学ぶとともに、セントラルドグマの概要を分子生物学の立場から説明できる。	
8	生命活動を支える物質	脂質、糖質、タンパク質等に関連する健康・寿命の知識を整理し、説明できる。	
9	体を守る仕組み	微生物による感染症の歴史と免疫の仕組み、医療への応用などを説明できる。	
10	生活習慣病と老化	生活習慣病・ガン・老化・iPS細胞・再生医療に関する知識を整理し、説明できる。	
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

科学的思考の基盤

担当科目	化学		講師	伊藤 博	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	1. 歯科衛生士に必要な化学の基礎知識を習得する。 2. 専門基礎分野で学習する生化学、生理学、薬理学に必要な知識を習得する。				
授業概要	1.化学の基礎を学習して、将来歯科衛生士として必要な知識を身に着ける。				
学習方法	講義・演習		成績評価の方法	筆記試験 100%	
教科書	最新 歯科衛生士教本「化学」 医歯薬出版				
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	物質の構造と錬金術	古代ギリシアの4元素説と、錬金術が化学に対して果たした役割について理解する			
2	原子の構造	原子の内部構造と、陽子、中性子、電子の役割について理解する			
3	原子番号と周期表	原子番号と周期表の関係、及び周期表の規則性について理解する			
4	原子の電子配置	電子殻のエネルギー順位と、S、P、d軌道の電子配置について理解する			
5	同位体とその用途	同位体の性質と、工業的な用途について理解する			
6	原子量と分子量	原子量の決め方と、相対値について理解する			
7	molの意味と計算	物質量の考え方と、mol計算の演習			
8	化学反応式と計算	化学反応式の理解と、反応式を使った計算演習			
9	化学結合と安定性	共有結合、イオン結合、金属結合についてその特徴を理解する			
10	水溶液の濃度計算	%濃度、vol%、w/v%、ppm、モル濃度について理解し、計算演習をする			
11	核分裂反応と原子炉	核分裂反応と原子炉への応用及び、核融合実験炉について理解する			
12	コロイド溶液の性質	コロイド溶液の性質と、食品及び薬品工業への応用について学ぶ			
13	酸とアルカリの性質	代表的な酸、アルカリの性質と、その働きを知る			
14	水素イオン濃度とPH	酸性、アルカリ性の強さを、対数を使ってPHで表す方法を学ぶ			
15	光合成反応と生命合成	光合成の基本反応式と、生命合成の可能性について理解する			
16	学期末試験	学習到達度を確認する			
17					
18					
19					
20					

担当科目	基礎数学		講師	清水 怜		
時間(単位)数	1 単位	15 時間	実施時期	1 学年	前期	
一般目標 (GIO)	数学における基本的な概念や原理及び法則を深め、事象を数学的に考察し処理する能 を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを 認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。					
授業概要	歯科衛生士として、求められる計算・測量の方法を考えながら進行する。 以後の専門的な実習や演習の一助となる知識を定着させるため、一般的な生活でも流用できる 数学的問題を積極的に盛り込んだ授業展開とする。					
学習方法	講義・実習 解説と演習を繰り返す。 HWで定着を促進する。		成績評価の方法	筆記試験	80%	
				出席・レポート	20%	
教科書	なし プリント配布					
実務経験	なし					
授業計画						
No	授業項目	到達目標 (SBOs)				
1	整数の概要	指示通り小数から分数、分数から小数また通分と約分ができる。				
2	整数計算	小数や正負の数、また分数を用いた計算ができる。				
3	割合の考え方	割合の概念を説明することができる。				
4	割合計算	割合を用いた計算を質問通り解答することができる。				
5	比の計算	比を用いた計算を質問通り解答することができる。				
6	中間試験	1～5の範囲に関しての到達度を確認する。				
7	中間試験の見直し	1～5の範囲に関して、医療従事者として最低限の知識を発揮できる。				
8	濃度計算の基礎	濃度計算の基本を理解し、簡単な水溶液や必要な薬量の計算を行うことができる。				
9						
10	濃度計算の応用	制限された試料をもとに、指示された水溶液を作製したり、試料を算出することができる。				
11						
12	濃度計算の演習	如何なる濃度計算であっても、正答することができる。				
13						
14	全項目の確認	本講義の到達度を確認し期末試験を実施 期末試験に向けた確認作業を実施				
15						
16						
17						
18						
19						
20						

担当科目	臨床歯科英語		講師	真船 えり		
時間(単位)数	2 単位	30 時間	実施時期	1 学年	前期	後期
一般目標 (GIO)	歯科医療の診療場面における、患者との英語でのコミュニケーションのための基礎を習得することを目標とする。					
授業概要	歯科医療の診療場面における患者とのコミュニケーションを想定した英会話、医療関連英会話、歯科専門用語、医療専門用語、歯科医療関連英文読解、の基礎を学習する。					
学習方法	教科書と印刷教材の英語表現、 歯科専門用語を理解し、読み、 書き、聞き、話す演習を行う。		成績評価の方法	期末試験 50% 授業内演習 50%		
教科書	『歯科用英語ハンドブック——即戦力のトレーニング』佐野さつき他著、医学情報社 印刷教材					
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標 (SBOs)				
1	導入、Unit 1 自己紹介	英語で自己紹介できる。歯科に関連した職業や用語を英語で表現することができる。				
2	Unit 2 日常生活動作	日常生活動作を英語で表現することができる。				
3	Unit 3 過去の動作	過去の日常生活動作を英語で表現することができる。				
4	Unit 4 歯科医院の受付	歯科医院の受付で使われる用語を理解し英語で表現することができる。				
5	Unit 5 症状の表現	風邪などの症状を英語で表現することができる。				
6	Unit 6 歯科の予約	歯科医院の予約に必要な用語を理解し英語で表現し応答することができる。				
7	Unit 7 虫歯、歯の名称	虫歯と歯についての用語を理解し英語表現することができる。				
8	Unit 8 身体の部位名	身体の部位を英語で表現することができる。				
9	Unit 9 痛みの表現	痛みについての用語を理解し英語で表現することができる。				
10	Unit 10 病歴の質問	病歴を英語で質問し答えを理解することができる。				
11	Unit 11 診察への案内	診察室への案内や診療場面での指示を英語で表現することができる。				
12	Unit 12 レントゲン写真	レントゲン写真撮影に関連した指示を英語で表現することができる。				
13	Unit 13 薬の説明	薬についての説明を英語で表現することができる。				
14	Unit 14 ブラッシング	ブラッシングについての説明を英語で表現することができる。				
15	Unit 15 歯の健康	歯の健康についての説明を英語で表現することができる。				
16	診療場面での説明	診療場面でのその他の説明を英語で表現することができる。				
17		(授業の進捗状況により、授業項目の内容と回数がずれることがあります。)				
18						
19						
20						

2020年度 講義の概要 (シラバス) 毎回、火曜日 1h (7/07日は1・2h、14日は2h、22日(水)は1h)				
担当科目	基礎国語		講師	近藤 正臣
時間 (単位数)	2単位	30時間	実施時期	1 学年 前期
一般目標	①国語全般に亘る幅広い基礎知識・一般常識を習得する。 ②文章表現法やビジネス文書、スピーチの仕方等に関する事柄も逐次学び、実践する。 ③俳句・短歌の実作・鑑賞等を通して、言葉のリズム・物の見方・考え方を学ぶ。 また、創作することの難しさ・楽しさ・喜びを味わう。更に、鑑賞する態度を養う。			
授業概要	①テキスト・プリント教材を用い、国語全般の知識・常識を学びつつ教養を高める ②意欲的に取り組む姿勢の涵養を図り、将来の生活・職業に於いて役立てる。			
学習方法	講義・演習	成績評価の方法	定期試験85%、提出物10%、授業状況5%	
教科書 (テキスト)	テスト式 国語の常識の総演習 (修訂3版)		株式会社 京都書房	
授業計画				
No	授業項目	到達目標		日程
1	①オリエンテーション ②「子・子年に関して」の説明と問題	①「開講説明、授業の実施内容・評価方法」等に関して理解できる。 ②「子・子年について」理解できる。		4 / 14
2	①「3・3方式による文章表現」 I	①「3行3段落構成書き」による「自己紹介」ができる。→ 相互合評後、提出する。		4 / 21
3	①「3・3方式による文章表現」 II ②テキスト 第1回・第2回	①「3行3段落構成書き」による「未来像」について説明できる。→ 相互合評後、提出する。 ②テキスト問題の解答・解説により内容が理解できる。		4 / 28
4	①「俳句・短歌」に関して ②「俳句・短歌」の創作	①「俳句・短歌」の作り方を理解できる。 ②「俳句・短歌の創作プリント」に1句・1首を創作し記入する。		5 / 12
5	①「俳句・短歌」の創作の合評 ②近代俳句・近代短歌等について ③近世俳句・古典和歌等について	①創作プリント記入に基づき相互合評後、提出する。 ②テキスト中の「近代俳句・近代短歌」等の読解・鑑賞ができる。 ③テキスト中の「近世俳句・古典の和歌」の読解・鑑賞ができる。		5 / 19
6	テキスト 第3回・第4回	テキスト問題の解答・解説により内容が理解できる。		5 / 26
7	テキスト 第5回・第6回	テキスト問題の解答・解説により内容が理解できる。		6 / 02
8	テキスト 第7回・第8回	テキスト問題の解答・解説により内容が理解できる。		6 / 09
9	テキスト 第9回・第10回	テキスト問題の解答・解説により内容が理解できる。		6 / 16
10	テキスト 第11回・第12回	テキスト問題の解答・解説により内容が理解できる。		6 / 23
11	「作文・小論文の書き方」に関して	「文章の手順・禁止事項・上達法」等についての理解ができる。		6 / 30
12	「ビジネス文書」・「礼状の書き方」等に関して	「ビジネス文書」・「礼状の書き方の基本・礼状例」等について理解し、礼状を書くことができる。(実践)		7 / 07
13	「スピーチの訓練」に関して	「話し方のテクニック・話し手の態度・避けたい癖・話の準備と組み立て方」等についての理解ができる。		(2時間)
14	「スピーチの実践」 (1)	「スピーチの発表」を行い、自己分析・他人の講評ができる。		7 / 14
15	「スピーチの実践」 (2)	「スピーチの発表」を行い、自己分析・他人の講評ができる。		7 / 21
16	「全体のまとめ」に関して	○「全体のまとめ・試験について」の概要の理解ができる ○「活躍・発展を祈念して」等についての主旨が理解できる。		7 / 22
参考図書	・『何でもわかる 文章の書き方百科』 ・『新総合 図説国語』・『マイロード21』	平井昌夫 池内輝義 他	三省堂、 東京書籍 実教出版 他、	
備考	①「授業計画」に基づくテキスト問題・プリント教材の課題等は、事前学習をして来て下さい。 ②テキスト・プリント教材等を使用するので、忘れることなく、必ず持参して下さい。 ③進捗状況によっては、授業計画・試験の変更もあります。			

担当科目	心理学（人間行動学）		講師	岩井美路子	
時間（単位）数	2単位	30時間	実施時期	1 学年	後期
一般目標（G I O）	日常生活におけるさまざまな人間行動のメカニズムを理解する 各発達段階における心理・精神的特徴について体系的に理解する 学んだことを生活や社会のなかで生かせるようになる				
授業概要	心理学の基本的な研究や理論をパワーポイントを使って具体的に紹介する 日常生活や人間の行動との関係性を考える				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	60%
				課題・リアクションペー	30%
				出席	10%
教科書	レジュメを配布する 全国歯科衛生士教育協議会監修『心理学』 医歯薬出版				
実務経験	地域活動支援センター勤務				
授業計画					
N	授業項目	到達目標（S B O s）			
1	オリエンテーション	これから学ぶ心理学とは何かを知る			
2	ライフサイクルの意味	エリクソンの発達理論の概要をつかむ			
3	遺伝と環境	遺伝要因と環境要因の違いを理解する			
4	パーソナリティ	自己の発達とパーソナリティについて理解する			
5	認知の発達	認知とは何か。その発達を理解する			
6	学習と動機づけ	モチベーションを高めるための代表的な研究について理解する			
7	乳児期のころ	乳児期のころの発達についてその特徴を理解し、大切な語句の説明ができる			
8	ことばの獲得	人はどのようにことばを獲得していくのかを理解する			
9	幼児期のころ	幼児期のころの発達についてその特徴を理解し、大切な語句の説明ができる			
10	児童期のころ	児童期のころの発達についてその特徴を理解し、大切な語句の説明ができる			
11	青年期のころ	青年期のころの発達についてその特徴を理解し、大切な語句の説明ができる			
12	青年期の家族と友人関係	青年期の家族関係と友人関係の特徴を理解する			
13	青年期と恋愛	青年期に特徴的な恋愛について理解し、考える			
14	成人期のころ	成人期のころの発達についてその特徴を理解し、大切な語句の説明ができる			
15	老年期のころ	老年期のころの発達についてその特徴を理解し、大切な語句の説明ができる			
16	まとめ	これまでの講義を振り返り、要点の再確認をする			
17					
18					

担当科目	倫理学		講師	半田栄一	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	第1学年	○前期 後期
一般目標(GIO)	倫理思想を理解でき、「社会的存在」としての人間(アリストテレス)として「いかに生きるべきか」を自ら問い、医療者としてどうあるべきかについて考えることができる。				
授業概要	古代ギリシャ～近代に至るまでの西洋の倫理思想を学習し、東洋や日本における倫理思想についても合わせて学ぶ。同時に現代のグローバルな「生命倫理」や「環境倫理」についても講義していく。				
学習方法	配布プリント、板書、パワーポイントを使用した講義による。	成績評価の方法		試験と平常点(レポート、授業参加度)による。	
教科書	教科書は使用しない。参考書:『人間探求の流れ』関根、竹内共著、北樹出版。				
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	「倫理学」とは	「倫理学」の意味を理解し、「人間とはなにか」、「生きる意味」、「生命の尊厳」について素朴な問題提起ができる。			
2	ミレトス学派	古代ギリシャのミレトス学派の哲学と倫理思想について理解し、説明できる。			
3	ソクラテス	ソクラテスの哲学について理解し、「より良く生きる」ことについて説明できる。			
4	プラトン、アリストテレス	プラトン、およびアリストテレスの哲学と正義論を理解し説明できる。			
5	キリスト教の倫理思想	キリスト教の倫理と生命観、自然観を理解し、現代の科学技術文明との関連を説明できる。			
6	近世の哲学と倫理思想①	ルネサンスと宗教改革、イギリス経験論と大陸理性論を理解し、近世の倫理思想を説明できる。			
7	近世の哲学と倫理思想②	フランス啓蒙主義とドイツ観念論を理解し、その倫理思想を説明できる。			
8	東洋や日本の倫理思想	東洋や日本の倫理思想を理解し、グローバルな生命や環境の倫理について考え、自らの考えを述べるができる。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	解剖学		講師	松尾智子	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1学年	後期
一般目標(GIO)	歯科医学の基本である人体の構造を系統的に理解する。 それぞれの臓器の相互の位置関係と影響などを考察する。」				
授業概要	人体の構造を図や画像を通して臓器の構造と機能を理解し、基本的解剖学用語を身につける。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験 90%	小テスト・レポート 10%
教科書	最新歯科衛生・人体の構造 解剖学・組織発生学・生理学				
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	解剖学概論	基礎医学の中での解剖学の位置づけを理解する。			
2	骨学 I	全身骨格の基本的構成とそのつながりを理解する。			
3	骨学 II	骨の種類や関節の基本的構成とそのつながりを理解する。			
4	筋学 I	筋の種類や分類を理解する。			
5	筋学 II	骨格筋の骨格との結合とその働き、および体腔の構成を理解する。			
6	脈管学 I	心臓の構造と機能を理解する。			
7	脈管学 II	血管系の構成とそのつながりを理解する。			
8		リンパ系の構成とそのつながりを理解する。			
9	消化器	消化器系の構成と身体における位置関係を理解する。			
10	呼吸器	気道の構成と肺の構造、発声器の構造を理解する。			
11	泌尿器	腎臓と尿管、膀胱、尿道の構造を知り、尿の生成、輸送と蓄積、排泄を理解する。			
12	生殖器	女性、男性の生殖器の構造と身体における位置関係を理解する。			
13	内分泌腺	内分泌腺の身体における位置関係と構造を理解する。			
14	神経系 I	中枢神経系の構造とつながりを理解する。			
15	神経系 II	末梢神経系の構造とつながりを理解する。			
16	感覚器	主に特殊感覚、体性感覚の受容器の構造と働きを理解する。			
17					
18					
19					
20					

担当科目	組織・発生学		講師	中村 雅典	
時間(単位)数	2 単位	30時間	実施時期	1 学年	前期 後期
一般目標 (GIO)	生体の正常機能ならびに異常を理解するために生体を構成する組織、器官の微細構造を学ぶ。人体と口腔の発生過程を理解する。				
授業概要	組織学については一般組織学及び口腔組織学を学習内容とする。 発生学については人体の初期発生と口腔の発生を学習内容とする。 前回の講義内容を自学自習により総括する。講義時間の冒頭で行う確認テストにて知識の確認を行う。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	90%
				出席	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・生理学」			医歯薬出版	
	最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」			医歯薬出版	
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標 (SBOs)			
1	細胞と上皮組織①	組織学で重要となる細胞の構造と役割について、また上皮組織の種類と特徴について説明できる。			
2	上皮組織②	重層扁平上皮と腺組織について説明できる。			
3	支持組織①	支持組織の種類と特徴について説明できる。			
4	支持組織②	骨と軟骨について説明できる。			
5	筋組織	筋組織の種類と形態の特徴、機能について説明できる。			
6	神経組織	神経組織の種類と形態の特徴、機能について説明できる。			
7	血管、血液、造血系	血管・血液・造血系の種類と形態の特徴、機能について説明できる。			
8	呼吸器、消化器、泌尿器	呼吸器・消化器・泌尿器の種類と形態の特徴、機能について説明できる。			
9	口腔組織	口腔組織を列挙し、それぞれの特徴を概説できる。			
10	エナメル質	エナメル質の構造と特徴を説明できる。			
11	象牙質、歯髄	象牙質・歯髄の構造と特徴を説明できる。			
12	歯周組織の構造	歯周組織について概要を説明できる。			
13	セメント質、歯根膜	セメント質と歯根膜の構造及び機能について説明できる。			
14	歯肉、歯槽骨	歯肉と歯槽骨の構造及び特徴を説明できる。			
15	人体組織の発生	人体の初期発生について説明できる。			
16	口腔組織の発生	口腔組織の発生過程を説明できる。			
17					
18					
19					
20					

担当科目	生理学		講師	大貫芳樹	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	人体の正常な生理機能を理解し、歯科臨床を学ぶ上での基礎知識を習得する。				
授業概要	人体の生理機能を、器官系ごとに分けて学習する。また、器官系間の相互作用についても学習する。				
学習方法	講義・宿題		成績評価の方法	筆記試験	90%
				出席・宿題	10%
教科書	最新歯科衛生士教本／人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版				
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	生理学概論	生理学について説明できる。			
2	細胞と体液・血液	細胞および細胞内小器官の機能を説明できる。また、体液・血液の組成と機能を説明できる。			
3	循環と呼吸	循環器系および呼吸器系の機能を説明できる。			
4	筋、神経および感覚	筋系、神経系および感覚器系の機能を説明できる。			
5	消化と吸収	消化器系の機能を説明できる。			
6	内分泌	内分泌系の機能を説明できる。			
7	腎臓と排泄	排泄器系の機能を説明できる。			
8	発生と生殖、体温	生殖器系の機能を説明できる。また、体温の調節機序を説明できる。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	生化学		講師	田中 秀樹		
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1 学年	前期	後期
一般目標(GIO)	各臓器の細胞レベルで行われる代謝の様相を理解し、生命維持に必要な栄養素の重症性を認識する					
授業概要	人体の中に存在する主な栄養素や、化学反応を理解する。					
学習方法	講義		成績評価の方法		各回授業前に行う小テストおよび 出席状況 10% 定期試験の点数 90%	
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社					
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	細胞の構成要素	細胞膜の構造, 細胞内の各小器官について説明できる。				
2	細胞の活動を支える物質1	糖質, 脂質について説明できる。				
3	細胞の活動を支える物質2	タンパク質, 酵素について説明できる。				
4	口腔の組織と分子1	口腔内の組織について説明できる。				
5	口腔の組織と分子2	う蝕, 歯周病, 歯の堆積物, 唾液について説明できる。				
6	硬組織	骨, 歯, 軟骨を中心とした硬組織について説明できる。				
7	臓器の働き	脳, 筋肉, 腎臓, 肝臓の働きについて説明できる。				
8	恒常性	ホルモン, 免疫について説明できる。				
9	栄養素の消化, 吸収, 代謝	各栄養素の消化, 吸収, 代謝の流れを説明できる。				
10	復習	知識のまとめと問題演習を通じて理解を確実なものにする。				
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

担当科目	口腔解剖学		講師	中村 雅典		
時間(単位)数	2 単位	30 時間	実施時期	1 学年	(前期)	後期
一般目標(GIO)	口腔および顎顔面の正常構造および機能について理解し、 歯科衛生士に必要な口腔解剖学的知識を修得する。					
授業概要	口腔領域を中心とした頭頸部の解剖学を系統的に解説する。					
学習方法	講義		成績評価の方法		試験90%、出席10%	
教科書	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版株式会社					
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	口腔解剖学概論 頭蓋の骨 (頭蓋の概要)	頭蓋を構成する骨の名称を説明できる。				
2	頭蓋の骨	脳頭蓋を構成する骨の名称および構造を説明できる。				
3	頭蓋の骨	顔面頭蓋を構成する骨の名称および構造を説明できる。				
4	頭蓋の骨	口腔を構成する骨の名称および構造を説明できる。				
5	頭頸部の筋	表情筋の名称と機能を説明できる。				
6	頭頸部の筋	咀嚼筋および頸部の筋の名称、構造および機能を説明できる。				
7	口腔の構造	口腔の範囲と各部位の構造および機能を説明できる。				
8	唾液線	唾液線の構造および機能を説明できる。				
9	顎関節	顎関節の構造および機能を説明できる。				
10	咽頭、喉頭	咽頭と喉頭の構造および機能を説明できる。				
11	頭頸部の脈管系	頭頸部に分布する動脈を説明できる。				
12	頭頸部の脈管系	頭頸部に分布する静脈とリンパ節を説明できる。				
13	頭頸部の神経系	三叉神経、顔面神経を説明できる。				
14	頭頸部の神経系	舌咽神経、迷走神経、舌下神経を説明できる。				
15	頭頸部の神経系	頭頸部の脊髄神経、自律神経を説明できる。				
16	口腔解剖学総括	口腔顎顔面領域の解剖学的構造について説明できる。				
17						
18						
19						
20						

担当科目	歯牙解剖学		講師	松尾智子	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	歯科衛生士としての基礎知識として、歯の外形、咬頭や隆線、溝などの形態的特徴を学ぶと同時に、隣接歯との接触や歯列と咬合について習得する。				
授業概要	講義で得られた知識を立体的イメージとして再現するために模型を観察してスケッチを描いたり、歯の鑑別実習を行う。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	90%
				小テスト鑑別試験	10%
教科書	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能				
	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	歯型解剖学概論	歯と顎骨の生物学的意義や定義、起源、機能について理解する。			
2		歯の種類、名称、記号、方向用語を学習し理解する。			
3	切歯	上下顎中切歯と側切歯の形態と特徴を理解する。			
4	犬歯	上下顎犬歯の歯種別形態と特徴を理解する。			
5		歯の記号を覚えるため小テストをおこなう。前歯部の歯の鑑別実習を行う。			
6		前歯部の歯の鑑別実習試験を行い、天然歯を鑑別できる能力を養う。			
7	上下顎小臼歯	小臼歯部の歯種別形態と特徴を理解し、歯根数と歯髓腔、根管の構造を知る。			
8		上顎小臼歯と下顎小臼歯、また第一小臼歯と第二小臼歯乃差異、咬合関係について理解する。			
9	上顎大白歯	上顎大白歯部の歯種別形態と特徴を理解し、歯根数と歯髓腔、根管の構造を知る。			
10	下顎大白歯	下顎大白歯部の歯種別形態と特徴を理解し、歯根数と歯髓腔、根管の構造を知る。			
11		また、咬頭の成り立ちやドリオピテクスパターンについて知る。			
12		臼歯部の歯の鑑別実習を行う。			
13	乳歯	乳歯の特徴について永久歯と比較して理解できる。			
14	歯の形態異常	正常歯と比較した形態異常を理解する。			
15		臼歯部の歯の鑑別実習試験を行い、天然歯を鑑別できる能力を養う。			
16	歯列と咬合	歯列弓の成り立ちについて学習し、形態、分類について理解する。			
17		上下顎の歯の咬合様式、咬合位と咬合平面について理解する。			
18					
19					
20					

担当科目	口腔生理学		講師	大貫芳樹	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	口腔領域の正常な生理機能を理解し、歯科臨床を学ぶ上での基礎知識を習得する。				
授業概要	口腔の生理機能を、歯、口腔感覚、味覚、咀嚼、嚥下、唾液、発声の7つの領域に分けて学習する。				
学習方法	講義・宿題		成績評価の方法	筆記試験	90%
				出席・宿題	10%
教科書	最新歯科衛生士教本／歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版				
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	口腔生理学概論	口腔生理学について説明できる。			
2	歯および歯周組織の構造と機能	歯および歯周組織の構造と機能を説明できる。			
3	咬合と咀嚼・吸啜	咬合と咀嚼・吸啜について説明できる。			
4	口腔感覚	口腔の体性感覚について説明できる。			
5	味覚と嗅覚	味覚と嗅覚について説明できる。			
6	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐について説明できる。			
7	唾液と唾液腺	唾液および唾液腺の機能を説明できる。			
8	発声	発声・発語機構について説明できる。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	病理学／口腔病理学		講師	美島 健二	
時間(単位)数	2 単位	30 時間	実施時期	1 学年	前期 (後期)
一般目標(GIO)	病気の原因や成り立ちを理解するために、病理の基本的な考え方や色々な用語の概念を知る。口腔領域に発生する主な疾患の種類、原因や発生機序、経過やその治療について知る。				
授業概要	う蝕、歯周病、不正咬合、先天性疾患、腫瘍、などさまざまな疾患を理解するためには、病理学の理解が不可欠である。他の教科との関連性も交えながら座学形式の講義を行う。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	80%
				小テスト	10%
				出席	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「疾患の成り立ちおよび回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」医歯薬出版				
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	病理学序論と病因論、遺伝性疾患と奇形、循環障害、代謝障害と退行性病変	病理学とはなにかを説明できる。			
		遺伝性疾患と奇形、循環障害、代謝障害と退行性病変とはなにかを説明できる。			
2	増殖と修復、炎症と免疫応答異常	増殖と修復とはなにかを説明できる。			
		炎症と免疫応答異常とはなにかを説明できる。			
3	腫瘍、歯の発育異常	腫瘍とはなにかを説明できる。			
		歯の発育異常とはなにかを説明できる。			
4	歯の損傷と着色・付着物、小テスト	歯の損傷と着色物・付着物とはなにかを説明できる。			
		第1～3回の講義内容の復習テストを通じて、病理学とはなにかを説明できる。			
5	う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態	う蝕とはなにかを説明できる。			
		象牙質・歯髄複合体の病態とはなにかを説明できる。			
6	歯周組織の病態、口腔粘膜の病態	歯周組織の病態とはなにかを説明できる。			
		口腔粘膜の病態とはなにかを説明できる。			
7	口腔領域の嚢胞と腫瘍、口腔癌、顎骨の病変	口腔領域の嚢胞と腫瘍(良性／悪性)とはなにかを説明できる。			
		顎骨の病変とはなにかを説明できる。			
8	唾液腺の病変、口腔領域の奇形、口腔領域の加齢変化	唾液腺の病変とはなにかを説明できる。			
		口腔領域の奇形や加齢変化とはなにかを説明できる。			

担当科目	微生物学		講師	梅本俊夫	
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1学年	後期
一般目標(GIO)	歯科衛生士が行う業務、すなわち齲蝕や歯周病等の口腔感染症に対する予防処置や患者に対する口腔衛生指導さらに診療補助業務としての治療機材の滅菌や消毒を行う為に必要な微生物学および免疫学的知識を習得する事を目的とする				
授業概要	一般微生物学及び免疫学の基礎を講義した後に口腔感染症と微生物との関係について詳細に講義を行う。				
学習方法	講義(パワーポイント使用)		成績評価の方法	筆記試験(多肢選択問題) 100%	
教科書	最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物 医歯薬出版				
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	疾病と微生物	1. 感染及び感染症と微生物の関係を理解する。 2. 微生物学発展の歴史を知る。			
2	微生物の病原性	1. 微生物の種類と特徴を知る。 2. 細菌の性状と病原性を理解する。			
3	宿主の防御機構	1. 自然免疫と獲得免疫の違いを理解する。			
4	免疫機構の発現と調節1	1. 液性免疫・抗体発現の機序を理解する。 2. 抗原抗体反応について理解する。			
5	免疫機構の発現と調節2	1. 細胞性免疫の発現の機序を理解する。			
6	アレルギー	1. アレルギーの型と発現機序を理解する。			
7	化学療法	1. 化学療法薬の種類と特徴を理解する。 2. 化学療法薬の副作用について理解する。			
8	主な病原細菌1	1. 化膿性炎を起こす細菌の種類と性状を知る。 2. 粘膜表層感染を起こす細菌を知る。			
9	主な病原細菌2	3. 毒素性炎を起こす細菌の種類と性状を知る。 4. 肉芽性炎を起こす細菌の種類と性状を知る。			
10	細菌以外の病原微生物	1. 真菌と原虫について知る。 2. ウイルスの種類お特徴を理解する。			
11	口腔環境と細菌叢	1. 成立と遷移について知る。 2. プラークの形成機序を説明できる。			
12	口腔感染症1	1. 齲蝕と继发疾患の発現機序を説明できる。			
13	口腔感染症2	1. 歯周病の発現機序を説明できる。			
14	口腔感染症3	1. 歯周病と関連性のある疾患について説明できる。			
15	その他の口腔感染症	1. 口腔に発現するウイルス感染症、真菌感染症について理解する。			
16	院内感染対策と滅菌消毒	1. 滅菌と消毒の種類と特徴を説明できる。 2. 歯科臨床における感染対策について説明できる。			
17					
18					
19					
20					

担当科目	薬理学		講師	島田 明美		
時間(単位)数	2単位	30 時間	実施時期	1 学年	前期	後期
一般目標 (GIO)	1. 薬物の作用の分類、生体内運命、連用や併用による影響などの一般的性質を理解する。 2. 薬物と医薬品に関連する法規を理解する。 3. 歯科で用いる医薬品の薬理作用、作用機序、副作用、使用上の注意等を理解する。 4. 他科で処方される医薬品の薬理作用、副作用、歯科医薬品との相互作用を理解する。					
授業概要	歯科で用いる薬物や患者が他科で処方・投与されている薬物の作用のしくみ、副作用、相互作用、関連法規等について学習する。					
学習方法	講義プリントを配布する。聴講しながらプリントを完成させる。	成績評価の方法		期末試験、毎回の講義後の小テスト、出席状況をもとに総合的に評価する		
教科書	歯科衛生士テキスト 最新薬理学－疾病の成り立ち及び回復過程の促進－ 学建書院					
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標 (SBOs)				
1	薬理作用と作用機序	薬理作用の基本形式と薬物の作用機序の分類について理解し、説明できる。				
2	薬理作用に影響を与える因子	薬物の用量と効果、生体における薬理作用に影響を与える因子について理解し、説明できる。				
3	薬物の投与方法	薬物の投与方法と吸収部位について理解し、説明できる。				
4	薬物の生体内運命	吸収された薬物の分布、代謝、排泄について理解し、説明できる。				
5	薬物の連用、併用	薬物の連用、併用による影響について理解し、説明できる。				
6	薬物の有害作用	薬物の有害作用について理解し、説明できる。				
7	医薬品関連法規	医薬品の定義、分類、医薬品関連法規、剤形の種類について理解し、説明できる。				
8	処方箋と調剤	処方箋の記載事項と取扱い、調剤の注意点について理解し、説明できる。				
9	末梢神経系に作用する薬物	自律神経薬、筋弛緩薬等の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
10	循環・呼吸器系に作用する薬物	抗高血圧薬、喘息治療薬等の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
11	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬などの中枢神経系作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
12	局所麻酔薬・血管収縮薬	局所麻酔薬と血管収縮薬の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
13	血液に作用する薬物	止血薬、抗凝血薬の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
14	抗炎症薬	抗炎症薬の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
15	消毒薬	消毒薬の薬理作用、作用機序、有害作用を理解し、説明できる。				
16	化学療法薬	抗菌薬など原因療法に用いる薬物の薬理作用、作用機序、副作用を理解し、説明できる。				
17						
18						
19						
20						

担当科目	口腔衛生(I)		講師	平田幸夫		
時間(単位)数	3単位	45時間	実施時期	1 学年	学期	前期
一般目標(GIO)	歯や口腔の正常な発育・機能を習得する。 歯や口腔の疾病や異常の発現の予防法を習得する。 歯や口腔の健康が全身の健康にとって重要であることを習得する。					
授業概要	口腔衛生学は歯科医学の中において、予防や健康増進についての中心的な役割を担っている。そのため、 歯科の二大疾患である齲蝕と歯周疾患の発生予防をはじめ、口臭、不正咬合などの発生予防とともに口腔の 健康と口腔環境について学ぶ。					
学習方法	講義・演習		成績評価の方法	筆記試験	100%	
				中間	50%	
				期末	50%	
教科書	歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 第4版			学建書院		
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	口腔の健康・発病の概念	口腔の健康、歯科疾患の発病と予防の諸段階を説明できる。				
2	歯と口腔の発育	口腔の正常発育および歯の栄養、また、歯の萌出・成熟・喪失の過程について説明できる。				
3	口腔の環境と機能	口腔内の環境と口腔の機能について説明できる。				
4	口腔の沈着物	口腔の沈着物(ペリクル、歯垢、歯石、舌苔等)の作用について説明できる。				
5	口腔の清掃法	口腔清掃の概念、種類、各種手用歯ブラシ、各種ブラッシング法等について説明できる。				
6	歯磨剤	歯磨剤の定義、成分、使用法等について説明できる。				
7	う蝕予防①	う蝕の概念と、う蝕の原因と予防法について説明できる。				
8	う蝕予防②	う蝕の要因別の予防法と、う蝕活動試験について説明できる。				
9	フッ化物	フッ化物の性質、フッ化物の代謝、フッ化物の毒性について説明できる。				
10	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物によるう蝕予防において、全身応用法と局所応用法について説明できる。				
11	歯周病の予防	歯周病の要因と予防法について説明できる				
12	他の疾患・異常と予防	口臭、不正咬合、顎関節症、口腔がん等と予防及び歯科疾患と全身との関連を説明できる。				
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

担当科目	口腔衛生学(2)		講師	花田 信弘	
時間(単位)数	2 単位	30 時間	実施時期	第2 学年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期
一般目標(GIO)	口腔の健康と予防に関わる科学と社会の仕組みについて学修することにより、他の医療職と連携しながら地域社会において口腔保健活動を実践することができる。				
授業概要	第1学年で修得した口腔衛生学の基礎を発展させ、関係法規の解説、患者と地域社会への応用手法、国家統計の結果を理解するための指標の整理を行う。授業は教科書を中心に解説し、必要な資料を配布し、スライドを使用する。毎回の講義で小テストを行い、形成的評価に用いる。				
学習方法	事前に授業内容に関する教科書を読んでから出席する。復習のために当日中にまとめのノートを作成する。		成績評価の方法	定期試験80% 小テスト10% まとめのノート10%	
教科書	口腔衛生学 学建書院				
実務経験	九州歯科大学附属病院、岩手医科大学歯学部附属病院、鶴見大学歯学部附属病院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	歯・口腔の健康と予防	Leavell & Clarkの疾病予防の3相と5つの予防手段を説明できる。			
2	全身疾患との関連	口腔の健康は全身の健康と相互に深く関わり合っていることを説明できる。			
3	常在菌とバイオフィーム	ペリクル、デンタルプラークバイオフィームの細菌叢、歯石の形成過程を説明できる。			
4	疫学とその応用	疫学の定義を理解し、疫学研究の方法を説明できる。			
5	歯科疾患の疫学指標	歯科疾患の指標を分類・整理できる。			
6	歯科保健の国家統計	主要な国家統計を理解し、歯科疾患実態調査の概要を説明できる。			
7	スクリーニング検査	正規分布の特徴を理解し、スクリーニング検査の意義と有効性を説明できる。			
8	齲蝕の疫学と栄養学	齲蝕の歴史を理解し、齲蝕と栄養の関係、齲蝕の指標と現状を説明できる。			
9	歯周病の疫学と栄養学	歯周病の歴史を理解し、歯周病と栄養の関係、歯周病の指標と現状を説明できる。			
10	不正咬合の疫学と食品	不正咬合の歴史、食品との関係を理解し、不正咬合の指標と現状を説明できる。			
11	フッ化物による齲蝕予防	脱灰・再石灰化の化学的原理を理解し、フッ化物による齲蝕予防の理論と毒性を説明できる。			
12	フッ化物の応用	フッ化物の全身応用と局所応用を理解し、フッ化物応用による齲蝕予防の疫学を説明できる。			
13	地域歯科保健関連法規	日本国憲法を含む地域歯科保健関連法規を説明できる。			
14	母子歯科保健	母子保健法を理解し、幼児の法定歯科健康診査を説明できる。			
15	学校歯科保健	学校保健安全法を理解し、学校における歯科の役割を説明できる。			
16	産業歯科保健	労働基準法と労働安全衛生法を理解し、産業現場における歯科の役割を説明できる。			
17	成人・高齢者歯科保健	健康増進法(健康日本21)、高齢者医療確保法を理解し、保健指導における歯科の役割を説明できる。			
18	地域包括ケアシステム	介護保険法を理解し、地域支援事業(介護予防事業)と訪問歯科診療を説明できる。			
19	精神・障害者歯科保健	精神保健福祉法と障害者総合支援法を理解し、歯科医療・口腔保健の役割を説明できる。			
20	災害時および国際歯科保健	災害時歯科保健、世界保健機関の感染症対策と日本の国際歯科保健協力を理解し、説明できる。			

担当科目	衛生統計		講師	磯谷美重	
時間(単位)数	1 単位	15 時間	実施時期	2 学年	前期 後期
一般目標(GIO)	歯科衛生士として必要な統計学の基礎的知識を修得する。				
授業概要	科学的根拠を得るための統計処理を理解の上で、口腔疾患及び口腔健康に影響を及ぼす因子の指数を用い演習を行う。				
学習方法	講義・演習		成績評価の方法	筆記試験 80% 出席・提出物 20%	
教科書	歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」 学建書院				
実務経験	大学機関での教育経験、病院・歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	衛生統計の基礎	標本調査の方法(標本抽出)と得られたデータの種類について理解する。			
2	データの分析①	基本統計値について理解する。度数分布について理解する。			
3	データの分析②	正規分布・区間推定について理解し、データ処理の演習を行う。			
4	データの分析③	相関・検定について理解し、データ処理の演習を行う。			
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	衛生学・公衆衛生学		講師	岡 仁		
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	1 学年	前期	後期
一般目標(GIO)	歯科衛生士国家試験に合格するに足る学力、知見、知識、倫理観を習得することを目標とする。					
授業概要	歯科衛生士が備えるべき一般教養の中核である環境、人口、感染や保健施策に至る幅広い内容に言及し、知見を広める。					
学習方法	教科書・講義を中心に、P.Pも利用 DVD映像などの利用も積極的に 工夫する。		成績評価の方法	四択・筆記試験 70% 小論文 20% 講義を聞く態度・姿勢 10%		
教科書	医療スタッフのための衛生学エッセンス(学建書院、荒川浩久ほか)					
実務経験	歯科衛生士専門学校・非常勤講師、20年 歯科医院開設者・理事長 30年以上					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	総論・概論・統計 他	予防医学・人口・ヘルスプロモーション・ヘルスケア				
2	環境と健康	地球環境・空気・水・放射線・公害・廃棄物				
3	感染症・疫学	感染症各論・疫学研究・院内感染				
4	食品と健康	栄養基準・食中毒・代用甘味料・生活習慣(生活習慣病)				
5	地域保健					
6	母子保健・学校保健					
7	成人・高齢者保健					
8	産業・精神保健	発達障害に関するDVD映像の聴取				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						

担当科目	衛生行政・社会福祉学		講師	阿部 智	
時間(単位)数	2 単位	30 時間	実施時期	2 学年	後期
一般目標(GIO)	本講義は公衆衛生、社会医学の考え方を基本として、主に医療倫理、保健医療行政、医事法制、社会保障等を学び、保健医療を社会的な手法でマクロ的に捉えてく思考を学ぶものである。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・指定する教科書を以て基本的な事項を学び、必要に応じて問題演習を行う。 ・国際保健など教科書に記載のない項目については別途資料を配布し講義の参考とする。 ・講義内容によってはニュースなどの時事問題を取り上げ、講義内容との関連性について説明する。 				
学習方法	講義		成績評価の方法	筆記試験:90% 出席:10%	
教科書	歯科保健医療に関連する社会保障制度と関係法規			アナトーム社	
実務経験					
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	社会医学総論	公衆衛生、社会医学について総括的に説明できる。			
2	保健医療行政	国、都道府県、市町村等各行政単位の保健医療行政機構について説明できる。			
3	国際規範	ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等、保健医療分野で重要な国際宣言等について説明できる。			
4	医療倫理	ビーチャム・チルドレスによる医療倫理4原則、パターンリズムなどの医療倫理の基本事項を説明できる。			
5	歯科衛生士法	歯科衛生士法の基本事項および、歯科医療供給体制の変化に伴い役割が増えてきた経緯について説明できる。			
6	歯科医師法、 歯科技工士法	歯科衛生士法も含めた歯科関連3法について、それぞれの役割について説明できる。			
7	医療法、地域保健法	医療法、地域保健法の基本事項を学び、それぞれに規定される医療施設の違いを説明できる。			
8	学校保健安全法、母子保健法	学校保健、母子保健における各種関連法律と歯科保健の位置付けについて説明できる。			
9	医薬品医療機器等法、 薬剤行政関連法規	医薬品、医療機器などの薬事行政と関わりのある薬剤師の役割について説明できる。			
10	その他医事法制	そのた医療関連法規について説明できる。			
11	社会保障 医療保険	社会保障のうち、日本の公的医療保険制度について説明できる。			
12	社会保障 福祉行政	社会保障のうち、社会福祉について説明できる。			
13	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムや保健医療分野におけるソーシャルキャピタルの重要性について説明できる。			
14	医学史	医学史を学ぶことによって、医学知識や医療技術がどのように発展していったかを説明できる。			
15	国際保健	ユニバーサルヘルズカバレッジなどグローバルヘルスの主流について学び、歯科保健の位置付けを説明できる。			
16	総復習	学んだことを復習し、知識体系を再確認する。			
17					
18					
19					
20					

担当科目	栄養学		講師	里見 節子	
時間(単位)数	1単位	15 時間	実施時期	1 学年	後期
一般目標(GIO)	栄養素の役割、給源、過不足の影響を理解する。 「日本人の食事摂取基準」の5つの指標を理解し、摂取すべき量を知る。 食品の栄養的特徴から分類される6群分類と3色分類ができる。				
授業概要	糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルについて、種類や体内での働き、給源、過不足の影響を、また食品の持つ栄養的特徴を理解する。講義内容からの小テストを実施。講義終了時に穴埋め問題の復習課題を配布、次回までに仕上げ提出する(提出課題)。				
学習方法	講義 提出課題(宿題)	成績評価の方法		期末試験	70%
				講義時間内の小テスト	18%
				提出課題	12%
教科書	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」				医歯薬出版
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	栄養素の消化と吸収	糖質、タンパク質、脂質の消化吸收過程を理解する			
2	日本人の食事摂取基準	食事摂取基準の指標を理解し、主な栄養素の摂取すべきおおよそ量が説明できる			
3	糖質、タンパク質、脂質	体内における働き、給源、過不足の影響、摂取目安を理解する			
4	ビタミン、ミネラル	それぞれ種類および体内での働き、給源、欠乏症や過剰症を理解する			
5	水	体内での働き、供給および排泄される水について知る			
6	食物繊維	種類、働き、給源を知る			
7	6つの基礎食品群	それぞれの群の特徴を理解し、分類できる			
8	3色食品群	それぞれの群の特徴を理解し、分類できる			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	歯科衛生士概論		講師	荒川 浩久		
時間(単位)数	1単位	30 時間	実施時期	1 学年	前期	
一般目標(GIO)	保健医療人として、人々の歯科疾患の予防と健康増進を支援するために、歯科衛生学の重要性を理解し、歯科衛生業務の概要を習得する。併せて歯科衛生士として活躍するのに必要な多数の科目の基礎を学び、それらへの円滑な導入を図ることができるように学習する。					
授業概要	現在の歯科衛生士誕生までの歴史と歯科衛生士の業務を理解するとともに、歯科衛生業務の遂行に必要な歯科衛生過程、安全管理、感染予防、インフォームドコンセントを学ぶ。さらに、歯科衛生士としてアドバンスするために、国内外での歯科衛生士の活躍について理解する。					
学習方法	講義		成績評価の方法		中間試験(45%)と期末試験(45%)の総合評価(90%)に受講態度(10%)を加味して評価する。	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」 医歯薬出版					
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	歯科衛生士の歴史①	歯科衛生学と歯科衛生士の誕生について説明できる。教科書p1-11				
2	歯科衛生士の歴史②	現在の歯科衛生士誕生までの歴史を説明できる。教科書p11-19				
3	歯科衛生活動の理論	歯科衛生活動のための理論について説明できる。教科書p20-31				
4	歯科衛生過程	歯科衛生過程とSOAPについて説明できる。教科書p32-41				
5	歯科衛生士法①	歯科衛生士法における三大業務を説明できる。教科書p42-48				
6	歯科衛生士法②	歯科衛生士法による歯科衛生士の義務について説明できる。教科書p49-53				
7	安全管理	医療事故と歯科診療所における安全管理体制について説明できる。教科書p53-60				
8	感染予防	歯科診療所における医療廃棄物と感染予防対策について説明できる。教科書p60-65				
9	まとめ①	これまでに学んだことを振り返り、説明できる。教科書p1-65				
10	中間試験とフィードバック	これまでに学んだ範囲の中間試験を受験し、解答に到達する過程を説明できる。教科書p1-65				
11	医療倫理	医療人としての倫理、医学研究の倫理、患者の権利について説明できる。教科書p66-72				
12	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントと必要なコミュニケーションスキルについて説明できる。教科書p73-76				
13	歯科衛生士の現況	歯科衛生士の業務従事先と人数、ならびに他の医療職種の現況を説明できる。教科書p77-81				
14	歯科衛生士の活動	医療保険制度や介護保険制度における歯科衛生士の活動を説明できる。教科書p81-93				
15	海外の歯科衛生士	海外と日本の歯科衛生士の違いと海外での活動を説明できる。教科書p93-97				
16	まとめ②	中間試験以降に学んだことを振り返り、説明できる。教科書66-97				
17						
18						
19						
20						

担当科目	医療倫理学		講師	半田栄一	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	第2学年	○前期 後期
一般目標(GIO)	現代の医療原則を理解し、歯科医療の現場における臨床倫理に基づいて、歯科衛生士としての実践につなげられるようにする。				
授業概要	現代医療の現状と倫理上の問題、医療における全人性、医療原則について学習し、インフォームド・コンセントと患者の権利、歯科医療現場における臨床倫理や歯科衛生士の責務について考える。				
学習方法	配布プリント、板書、パワーポイントを使用して講義する。		成績評価の方法	試験と平常点(レポート、授業参加度)による。	
教科書	最新歯科衛生士教本『歯科医療倫理』第2版、榎則章他著、医歯薬出版。 参考書:『医療倫理の系譜—思いやる先人の知恵—』(改訂版)関根著、北樹出版。				
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	健康の定義	現代の医療を概観、理解し、WHOの「健康の定義」と「全人性」について理解し、説明できる。プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション等について理解し、説明できる。			
2	人道的医療	「ヒポクラテスの誓い」、「ジュネーブ宣言」を理解し、人道的医療について理解し、説明できる。			
3	患者の自律、研究倫理	「リスボン宣言」に至るまでの患者の権利の発展および「研究倫理」を理解し、説明できる。			
4	インフォームド・コンセントの意義	インフォームド・コンセントの意義、有効性(条件)とより良い方法について理解し、説明できる。			
5	歯科医療におけるコミュニケーション	歯科医療現場でのコミュニケーションおよび守秘義務について理解し、説明できる。			
6	医療事故防止、感染予防	医療事故防止、感染予防を歯科衛生士の職務として理解し、説明できる。			
7	禁煙指導	「健康増進法」と禁煙指導について説明できる。			
8	現代医療の倫理的問題	「延命医療と尊厳死・安楽死」、「脳死と臓器移植」等の倫理上の問題について理解し、「生命の尊厳性」について自ら考え説明できる。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	歯科臨床概論		講師	荒川 浩久			
時間(単位)数	1	30	時間	実施時期	1	学年	後期
一般目標(GIO)	歯科衛生士を目指す学生が、歯科保健医療を担うチームの一員になるための理解が深まるように、一般的な歯科診療の流れから、各診療分野における歯科衛生士の役割を習得し、円滑な導入を図ることができるように学習する。						
授業概要	歯科衛生士の主な就業先で実践している歯科衛生業務について学ぶとともに、歯科診療所、病院、訪問診療における各診療分野での業務、高齢者施設、居宅、地域保健における歯科保健指導について学び、臨床実習ならびに就業における業務に移行できる素養を身につける。						
学習方法	講義			成績評価の方法		中間試験(45%)と期末試験(45%)の総合評価(90%)に受講態度(10%)を加味して評価する。	
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版						
実務経験							
授業計画							
No	授業項目		到達目標(SBOs)				
1	歯科診療の概要		一般的な歯科診療所の構成と歯科診療の概要を説明できる。教科書p2-10				
2	歯科診療所の安全管理		歯科診療所の安全管理、感染予防対策、医療廃棄物について説明できる。教科書p11-1				
3	歯科診療所業務①		歯科診療所における業務と歯科診療の流れについて説明できる。教科書p14-18				
4	歯科診療所業務②		歯科診療における診査、検査、前処置について説明できる。教科書p20-31				
5	小児歯科		小児患者の問題点と歯科衛生士としてのTSDを説明できる。教科書p32-35				
6	う蝕予防処置		う蝕予防処置業務としてのシーラントとフッ化物歯面塗布法を説明できる。教科書p36-39				
7	歯科矯正		不正咬合、歯科矯正装置と歯科衛生士の役割を説明できる。教科書p40-43				
8	まとめ①		これまでに学んだことを振り返り、説明できる。教科書p2-43				
9	中間試験とフィードバック		これまでに学んだ範囲の中間試験を受験し、解答に到達する過程を説明できる。教科書p2-4				
10	口腔外科		口腔外科における診療内容、抜歯に必要なもの、粘膜疾患について説明できる。教科書p44-53				
11	歯科保存①		歯科保存修復処置と歯内療法の内容を説明できる。教科書p54-63				
12	歯科保存②		歯周病の原因と治療ならびに歯科衛生士としての業務内容を説明できる。教科書p64-7				
13	歯科補綴		歯科補綴物の種類と構成要素を説明できる。教科書p72-81				
14	障害者・高齢者歯科		障害者・高齢者における問題点と摂食嚥下障害への対応を説明できる。教科書p82-87				
15	全身疾患・高齢者への対応		全身疾患をもつ歯科患者と訪問歯科診療、周術期の口腔ケアを説明できる。教科書p88-9				
16	まとめ②		中間試験以降に学んだことを振り返り、説明できる。教科書44-94				
17							
18							
19							
20							

担当科目	保存修復学		講師	小野京	
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	第2学年	前期
一般目標(GIO)	保存修復学で扱う疾患及びその診査、診断、治療法を理解する。				
授業概要	硬組織疾患の病態とその治療内容をスライド、配布プリントを用いて講義する。				
学習方法	講義 SGD		成績評価の方法	出席状況	10%
				小テスト	20%
				筆記試験	80%
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 講義で配布するプリント				
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	保存修復学概要	保存修復で取り扱う疾患、治療内容の概要を理解する			
2	硬組織疾患	保存修復で扱う、う蝕およびその他の硬組織疾患を理解する			
3	検査、診査	保存修復に必要な検査、診査について理解する			
4	窩洞	Blackの窩洞を理解し、図説できるようになる			
5	直接法修復①	修復前準備、グラスアイオノマーセメント修復について理解する			
6	直接法修復②	防湿法、コンポジットレジン修復について理解する			
7	間接法修復	インレーの種類、間接修復材料、ラミネートベニアを理解する			
8	保存修復まとめ	学んだ内容を基に保存修復学の国試形式問題を解ける			

担当科目	歯周療法学	講師	吉田拓正
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期 2学年 前期
一般目標 (G10)	歯周組織を理解し、正常、歯肉炎、および歯周炎について理解すること。 また歯肉炎・歯周炎の治療法について学ぶこと		
授業概要	歯肉炎・歯周炎の病態についての授業を行い、それらのリスクファクター、診査方法について話す。その後に治療について説明をする。		
学習方法	講義	成績評価の方法	2回目以降の小テスト(40点) 本試験(60点) ☆再試験も60点です。
教科書	歯周病学(医歯薬出版)		
実務経験	大学病院・歯科医院での臨床経験あり。		
授業計画			
No	授業項目	到達目標 (SBOs)	
1	歯周病とは	歯周病についての概要を説明できる。	
2	正常歯周組織の用語	小テスト(5点) 正常歯周組織の構造と機能、歯周病における組織像の変化を説明できる。	
3	歯周病類似疾患・リスクファクター	小テスト(5点) 類似疾患と歯周病の原因とリスクファクターを説明できる。	
4	歯周病の診査と指標	小テスト(5点) プロービングの重要性とその他の診査法・様々な指標を説明できる。	
5	歯周病の治療①	小テスト(5点) 歯周治療の目的、方法、使用する器材を説明できる。	
6	歯周病の治療②	小テスト(5点) 歯周外科と使用する器材について説明できる。	
7	歯周病の治療③	小テスト(5点) ホームケアの導入とその目的、方法や器材について説明できる。	
8	まとめ	小テスト(10点) 歯周治療についてのまとめとトピック	

担当科目	歯内療法学		講師	本間秋彦	
時間(単位)数	1単位	30 時間	実施時期	2 学年	前期
一般目標(GIO)	・硬組織疾患それに継発して起こる歯髄疾患および根尖歯周組織の疾患に対する予防と治療の知識を習得する。				
授業概要	・歯髄の炎症から始まり、根尖性歯周組織炎各ステージでの特長、その治療方法、使用器具、歯内療法の概要をつかむことを目的とし、理解する。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	70%
				出席・レポート	30%
教科書	最新歯科衛生士教本歯の硬組織・歯髄疾患・歯内療法			医歯薬出版	
	歯の硬組織歯髄疾患、保存修復、歯内療法 歯科衛生士の臨床原著第9版			医歯薬出版	
実務経験	神奈川歯科大学付属病院講師・高島歯科医院院長				
授業計画					
No.	授業項目	達成目標(SBOs)			
1	歯内療法学とは	歯髄疾患、根尖性歯周組織炎の分類について説明ができる			
2	歯髄炎の治療とは	歯髄炎の分類・症状・治療について説明ができる			
3	根尖性歯周組織炎とは	慢性、急性根尖性歯周組織炎の治療について説明ができる			
4	根尖性歯周組織炎の診断	温度診、電気診、インピーダンス検査、コンビーム、CTについて説明ができる			
5	歯髄保存療法とは	鎮静療法、鎮静剤の種類、覆髄法、間接覆髄、直接覆髄、暫間的間接覆髄法について説明ができる			
6	歯髄除去療法とは	生活、失活歯髄切断法、麻酔、失活抜髄法が理解できるか			
7	根管充填法とは	根管療法の目的、術法、充填剤も種類、充填法、アペキソゲネーシス、アペキソフィケーションを理解できる			
8	外科的歯内療法とは	歯の外傷、再植における歯牙保存液を用いた保存法、安全策、事故の原因と予防歯科的汚染とその防止対策について説明できる			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

担当科目	歯科補綴学		講師	澤田 智慈	
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2学年	前期
一般目標(GIO)	歯科補綴治療に関する基礎知識と治療の実際を理解し習得する。 補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を理解し習得する。				
授業概要	歯・口腔・顎の欠損から生じる失われた形態と障害された機能を、人工装置を用いて回復し、さらに続発疾病の予防を図ることを目的とする歯科補綴について理解すること。				
学習方法	講義 スライドを用いて実施		成績評価の方法	本試験	80%
				小試験	10%
				出席	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常 1 歯科補綴」 医歯薬出版				
実務経験	神奈川歯科大学での教員、神奈川歯科大学附属病院・湘南なかがわ歯科での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	咀嚼障害・咬合異常	咀嚼障害・咬合異常にてついて理解し説明できる。			
2	歯科補綴の概要	歯科補綴とは何か、補綴歯科治療の意義目的と特徴を理解し説明できる。			
3	補綴歯科治療の基礎知識	補綴歯科治療に必要な基礎知識を理解し説明できる。			
4	歯の欠損に伴う障害	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療との必要性を理解し説明できる。			
5	補綴装置の種類と構造	固定性補綴装置・可撤性補綴装置の構造と種類を理解し説明できる。			
6	補綴歯科治療の検査・診断	医療面接、口腔内検査について理解し説明できる。			
7	クラウン・ブリッジ治療の実際	クラウン・ブリッジ治療の手順を理解し説明できる。			
8	有床義歯治療の実際	有床義歯治療に必要とされる項目、治療の流れ、管理の重要性を理解し説明できる。			
9	インプラント治療の実際	インプラントの基本構造と概念、治療の流れ、プラークコントロールについて理解し説明できる。			
10	補綴歯科治療の器材	補綴歯科治療に用いられる器具・材料を理解し説明できる。			
11	補綴歯科治療と歯科技工	補綴歯科治療と歯科技工の流れを理解し説明できる。			
12	歯科衛生士の役割	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を理解し説明できる。			
13	検査・診断時の業務	補綴歯科治療時の各検査に必要な器具・材料について理解し説明できる。			
14	治療時の業務	補綴歯科治療時の各ステップで準備するもの、補助内容を理解し説明できる。			
15	患者指導	補綴歯科治療における治療前・治療中・治療後の患者指導について理解し説明できる。			
16	器材の管理	補綴歯科治療における感染予防対策について理解し説明できる。			
17					
18					
19					
20					

担当科目	口腔外科学		講師	濱田良樹		
時間(単位)数	2	30 時間	実施時期	2 学年	後期	
一般目標(GIO)	口腔疾患の多種、多様な病態について、系統的に理解しその疾患への治療法および歯科衛生士としての対応を学ぶ。 歯科・口腔外科診療に必要とされる麻酔法および歯科治療中に偶発する全身的偶発事項の対応についても理解する。					
授業概要	顎口腔疾患の病態および診断・治療法を学習する。 歯科・口腔外科診療での麻酔法および歯科治療中に偶発する全身的偶発事項の対応について理解する。					
学習方法	講義		成績評価の方法	筆記試験	90%	
				出席状況・レポート	10%	
教科書	『新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔学』			医歯薬出版		
	『歯科衛生士講座 歯科衛生士のための 口腔外科学』			永末書店		
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり。					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	口腔外科の概要	歯科医療の口腔外科の位置づけを理解する。				
2	診察と診断 滅菌・消毒	滅菌と消毒の概念を理解し、適切な診察と診断方法を学習する。				
3	有病者における歯科医療	有病者のリスク評価ができる。				
4	先天異常・変形	奇形・変形の概念を説明できる。				
5	血液疾患と出血性素因	血液疾患の概念を説明できる。				
6	口腔領域の損傷	口腔領域の損傷・炎症・嚢胞の概念を理解する。				
7	口腔領域の炎症					
8	口腔領域の嚢胞					
9	口腔粘膜疾患・前癌病変・腫瘍概論	粘膜疾患・前癌病変・口腔癌の概念を理解する。				
10	口腔領域の良性腫瘍	良性腫瘍(歯源性腫瘍・非歯源性腫瘍)の概念を理解する。				
11	顎関節疾患	顎関節疾患の診断・治療について理解する。				
12	顎変形症	顎変形症の概念と診断・治療について理解する。				
13	創傷処置	創傷治癒および創傷処置を理解する。				
14	口腔外科小手術	抜歯・嚢胞摘出・インプラントの手術法、手順、器具を理解することができる。				
15	口腔領域の神経疾患	口腔領域の神経疾患・唾液腺疾患の概念を理解する。				
16	口腔領域の唾液腺疾患					
17	歯科口腔外科の麻酔	静脈内鎮静法・全身麻酔の概念を理解する。				
18	口腔癌手術・再建手術	口腔癌の治療概念を理解する。				
19	摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下機能障害を理解する。				
20	最新の顎変形症・顎骨再建手術	最新の顎骨変形・再建手術法を学習する。				

専門分野				
担当科目	小児歯科学	講師	久保田守	
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2学年 前期
一般目標(GIO)	小児の成長過程のに合わせ、健全な機能を持つ総合的咀嚼器官を育成することを目的とする			
授業概要	口腔疾患の発病、進行期として重要な小児期の特徴を理解し、臨床の場で対応できる能力を養う			
学習方法	スライド、歯科衛生マスターブック	成績評価の方法	試験80%、受講態度20%	
教科書	最新歯科衛生士教本 小児歯科、全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 小児歯科臨床補助、歯科衛生士 小児歯科マスターブック			
実務経験				
授業計画				
No	授業項目	到達目標(SBOs)		
1	小児歯科とは	小児歯科における衛生士の役割について理解する		
2	心身の発達①	小児の身体の特徴、運動機能の発達を説明できる		
3	心身の発達②	小児の情動の発達について理解できる		
4	顎と顔面の発達	小児の上顎骨、下顎骨、顔面の成長の違いを理解することができる		
5	歯の発育	乳歯、永久歯の歯胚形成から歯根形成の時期を理解できる		
6	歯の形成障害	歯の歯数の異常、形態の異常、萌出の異常を説明することができる		
7	歯列と咬合の発育	無歯期から永久歯列期までの歯列の特徴を理解できる		
8	乳歯と幼若永久歯の特徴	乳歯と幼若永久歯の特徴と違いを説明することができる		
9	小児の齲蝕	乳歯の齲蝕の特徴、乳歯歯髄炎の特徴を理解できる		
10	小児の歯周疾患	小児の歯周患者の特徴を説明することができる		
11	小児患者の取り扱い①	小児患者で協力患者の治療時の取り扱いを理解することができる		
12	小児患者の取り扱い②	小児患者で非協力患者の取り扱いを理解することができる		
13	笑気アノルジアについて	笑気麻酔の特徴を説明することができる		
14	小児の齲蝕予防	小児の齲蝕の薬物応用法について理解できる		
15	小児の歯冠修復	小児の歯冠修復の特徴を説明できる		
16	小児の歯内療法	小児の歯内療法の特徴を説明できる		
17	小児の外科処置	乳歯抜歯の特徴、外傷の特徴を理解することができる		
18	咬合誘導	乳歯列期から永久歯列期への交換期の過程で使われる咬合誘導が説明できる		
19	心身障害児の歯科治療	心身障害児の口腔内の特徴と歯科治療の特徴が説明できる		
20	パノラマ線写真トース	パノラマ線のトースをし歯、顎の形態を把握することができる		

担当科目	歯科矯正学		講師	野嶋 邦彦		
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2	学年	前期 後期
一般目標 (GIO)	歯科矯正学を学ぶために必要な顎顔面の成長発育、咬合についての知識を習得する。 不正咬合に対する治療意義、診断・治療および予防法を理解する。 矯正歯科診療を補助するために必要な知識を習得する。					
授業概要	歯科衛生士として必要な歯科矯正学の基礎的知識を理解する。 歯科衛生士として必要な矯正臨床の知識を理解する。 毎講義の最後にポストテストを行い、基本的知識の着実な習得を図る。					
学習方法	講義・ビデオ・ポストテスト		成績評価の方法		筆記試験	90%
					平常点評価	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」				医歯薬出版	
	歯科衛生士のための矯正歯科治療				わかば出版	
実務経験	病院・診療所での臨床経験あり。					
授業計画						
No	授業項目	到達目標 (SBOs)				
1	矯正歯科治療の概要	矯正治療の目的と意義を説明できる。				
2	成長発育	頭蓋・顔面、歯列の成長発育、口腔機能の発達について説明できる。				
3	正常咬合と不正咬合	正常咬合と不正咬合、不正咬合の原因について説明できる。				
4	矯正歯科診断	矯正診断に必要な診査、検査、症例分析について説明できる。				
5	矯正歯科治療と力	歯の移動における固定、組織反応、移動様式、矯正力、顎矯正力について説明できる。				
6	矯正装置	矯正装置の種類、特徴、適応症および使用目的を説明できる。				
7	上下顎前後の関係の不調和	前後関係の不調和のある症例の診断、治療目標、治療方針、矯正治療を理解できる。				
8	上下顎垂直の関係の不調和	垂直関係の不調和のある症例の診断、治療目標、治療方針、矯正治療を理解できる。				
9	成人矯正	成人症例の診断、治療方針、治療目標、矯正治療を理解できる。				
10	口腔顎顔面の形成異常と変形	先天異常を有する症例の診断、治療方針、治療目標、矯正治療を理解できる。				
11	歯の埋伏と歯数の異常	埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯の症例の診断、治療方針、治療目標、矯正治療を理解できる。				
12	矯正歯科治療のトラブルへの対応	矯正治療で生じるトラブルについて説明できる。				
13	健康保険が適用される矯正歯科治療	健康保険が適用される症例について説明できる。				
14	矯正歯科診断にかかわる業務	矯正歯科診断にかかわる業務、補助について理解し、説明できる。				
15	矯正歯科診療時の業務	矯正歯科診療の業務、補助について理解し、説明できる。				
16	矯正歯科患者と口腔保健管理	矯正治療患者における口腔保健の特徴、管理、指導法について説明できる。				
17	口腔筋機能療法 (MFT)	口腔筋機能療法の目的、指導法について説明できる。				
18	器材、資料、文書の管理	矯正用器材・器具、資料、文書の管理について説明できる。				
19						
20						

担当科目	歯科放射線学		講師	五十嵐千浪	
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2学年	前期 <u>後期</u>
一般目標(GIO)	X線の発生、撮影装置の構造についての正しい知識を理解し、安全に取扱えること パノラマX線装置の構造、撮影手順、写真処理について理解し、実施できること エックス線像の解釈ができること				
授業概要	X線撮影装置を安全に操作でき、放射線防護に務めること X線検査に必要な道具、機材を揃え、準備できること X線像を正しく解釈できること。				
学習方法	講義による座学 パノラマ撮影実習 上記実習中の模型作成		成績評価の方法	定期試験:95% 提出物の評価:5%	
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯科放射線 医歯薬出版				
実務経験	鶴見大学歯学部附属病院勤務				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	放射線物理、影響	放射線の種類を列記し、その量と人体への影響と放射線防護を理解する			
2	X線撮影装置	歯科用X線装置の構造を理解し、エックス線の発生を説明できる			
3	X線像の解釈	X線像の成り立ちを説明でき、正常像と病的像を理解し、撮影用器具を列記できる			
4	パノラマX線撮影装置	パノラマX線撮影の原理を理解し、写真処理の原理を理解する			
5	パノラマX線撮影実習	パノラマエックス線撮影実習を体験し、エックス線写真の正常解剖構造を理解する			
6	パノラマX線撮影実習	パノラマエックス線撮影実習を体験し、エックス線写真の正常解剖構造を理解する			
7	口外法X線撮影	口外法撮影の原理を説明でき、撮影補助を理解する			
8	特殊検査と放射線治療	その他の画像検査を理解し、放射線治療について理解する			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	高齢者歯科学		講師	深山 治久	
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2学年	前期
一般目標(GIO)	高齢者の特徴を把握し対応を習得する 高齢者に対する歯科診療上の注意点を習得する				
授業概要	高齢者の身体・生活機能・社会環境・心理的特徴を理解する。 摂食嚥下リハビリテーションや訪問診療を含めた歯科診療の注意点や口腔をケアする際の留意点を学ぶ。				
学習方法	講義・実習	成績評価の方法		筆記試験	70%
				実技試験	20%
				出席・レポー	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版			医歯薬出版	
	老年歯科医学			医歯薬出版	
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	高齢者を取り巻く社会	高齢者を取り巻く社会の特徴と課題を説明できる			
2	高齢者の身体機能の変化	若年者と高齢者の身体機能の差異, 加齢に伴う変化を説明できる			
3	高齢者の心理的变化	加齢に伴う心理的な変化を説明できる			
4	高齢者の全身疾患①	加齢に伴い増加する全身疾患を説明できる			
5	高齢者の全身疾患②	歯科診療時に注意すべき全身疾患を説明できる			
6	高齢者の全身状態の評価	歯科診療時に注意すべき全身状態を説明できる			
7	高齢者の生活機能	歯科診療時に配慮する高齢者の生活機能を説明できる			
8	高齢者の栄養状態	歯科診療時に配慮する高齢者の栄養状態を説明できる			
9	高齢者の薬剤服用	高齢者の薬剤服用の特徴を説明できる			
10	高齢者の口腔のケア	高齢者の口腔をケアできる			
11	有病高齢者の口腔のケア	有病高齢者の口腔をケアできる			
12	要介護高齢者の口腔のケア	要介護高齢者の口腔をケアできる			
13	摂食嚥下の評価と対応	摂食嚥下の評価と対応を理解している			
14	誤嚥性肺炎	誤嚥性肺炎について説明できる			
15	摂食嚥下リハビリテーション①	摂食嚥下リハビリテーションについて説明できる			
16	摂食嚥下リハビリテーション②	摂食嚥下リハビリテーションを理解し, 介助できる			
17	在宅訪問診療	在宅訪問診療を理解し, 介助できる			
18	歯科と公的介護保険	歯科と公的介護保険について説明できる			
19	かかりつけ歯科	かかりつけ歯科について説明できる			
20	訪問看護と歯科	訪問看護と歯科の連携を説明できる			

担当科目	障害者歯科学		講師	宮城 敦	
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2学年	後期
一般目標(GIO)	障害者の身体的、知的、および精神的特徴と特有の口腔機能障害について理解する。障害者とその家族に対して適切な態度と行動を習得する。				
授業概要	障害者の歯科診療では治療や指導および患者管理に特別な配慮を必要とする。その全身的特徴と局所的特徴(口腔機能)、および対応法について理解する。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	95%
				レポート・実習態度	5%
教科書	最新歯科衛生士教本「障害者歯科」 医歯薬出版				
実務経験	歯科大学付属病院での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	定義、現状、歴史	① 障害者の定義を説明できる。② ノーマライゼーションについて説明できる。			
2	生活と歯科的支援	① 障害者歯科の定義・歴史を説明できる。② チームアプローチを説明できる。			
3	患者の行動調整	①種々の行動調整法を説明できる(行動変容法)。			
4	患者の行動調整	①種々の行動調整法を説明できる(体動コントロール法、薬理学的方法)。			
5	感覚器障害と歯科的対応	① 視覚障害とその対応について説明できる。② 聴覚障害の症状と対応について説明できる。			
6	てんかん、薬剤	① てんかんの症状と対応について説明できる。② 障害者が多く服用する薬剤について説明できる。			
7	知的障害	① 知的障害の症状と対応について説明できる。② ダウン症候群の症状と対応について説明できる。			
8	発達障害1	① 学習障害の症状と対応について説明できる。② 注意欠如多動性障害の症状と対応を説明できる。			
9	発達障害2	①自閉症の症状と対応について説明できる。			
10	脳性麻痺	①脳性麻痺の症状と対応について説明できる。			
11	重症心身障害・筋ジス他	① 重症心身障害について説明できる。② 進行性筋ジストロフィーについて説明できる。			
12	歯科保健指導	①障害者への歯科保健指導について説明できる。			
13	障害者歯科の実際	映画鑑賞「さあ、お口をあけて！」① 障害者歯科診療の実際を理解する。			
14	障害者歯科の実際	映画鑑賞「さあ、お口をあけて！」① 障害者歯科診療の実際を理解する。			
15	振り返り授業	①障害者歯科全般について整理し、理解する。			
16	振り返り授業	①障害者歯科全般について整理し、理解する。			
17					
18					
19					
20					

担当科目	摂食嚥下機能学		講師	宮城 敦	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	2学年	後期
一般目標(GIO)	摂食嚥下の仕組みについて理解する。 障害者や高齢者などに摂食嚥下障害が起きやすいことを理解する。 摂食嚥下障害に対する対応法を習得する。				
授業概要	正常な摂食嚥下機能の発達について理解する。 摂食嚥下機能が障害される状態について理解する。 間接訓練、直接訓練など対応法を習得する。				
学習方法	講義	成績評価の方法		筆記試験	95%
				レポート・実習態度	5%
教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版」 医歯薬出版				
実務経験	歯科大学付属病院での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	摂食嚥下器官の解剖	①摂食嚥下器官について説明できる。 ② 摂食の5期を説明できる。			
2	摂食嚥下機能の発達	① 典型的な摂食機能の発達を説明できる。② 乳児嚥下と成人嚥下の違いを説明できる。			
3	高齢者の摂食嚥下機能	①高齢者に摂食嚥下障害が起こりやすい理由を理解し、説明できる。			
4	評価・診断	① スクリーニングテストを説明できる。 ② 確定診断について説明できる。			
5	間接訓練	① 間接訓練について理解し、説明できる。②過敏の脱感作、ガムラビング、口唇訓練などについて説明できる。			
6	間接訓練	① 実習により理解を深める。 ②嚥下体操、頭部挙上訓練、アイスマッサージなどを説明できる。			
7	直接訓練	①直接訓練を理解し、説明できる。②小児の摂食姿勢、下顎介助などについて説明できる。			
8	直接訓練	②相互実習で理解を深める。②摂食姿勢、息こらえ嚥下、一側嚥下、横向き嚥下などについて説明できる。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	歯科予防処置論 I		講師	佐々木真理子	鬼塚由希子
時間(単位)数	2単位	60時間	実施時期	1 学年	前期 後期
一般目標 (GIO)	口腔疾患を予防し人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術および態度を習得する。				
授業概要	歯科予防処置についての専門的な知識、技術および態度を習得する。 歯周病の基礎知識を理解し基本的な技術を習得する。 う蝕の基礎知識を理解し予防法とその技術を習得する。				
学習方法	講義・実習	成績評価の方法		筆記試験	60%
				実技試験	30%
				出席・レポート	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			医歯薬出版	
	最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」			医歯薬出版	
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目	到達目標 (SBOs)			
1	歯科予防処置とは	歯科予防処置における歯科衛生士の役割について理解し定義について説明できる。			
2	口腔の基礎知識	歯周組織の健康像と病的像について理解し説明ができる。			
3	口腔内の付着物・沈着物	口腔内の付着物・沈着物について説明ができる。			
4	う蝕の基礎知識①	う蝕の基礎知識を理解し説明ができる。 う蝕の原因・と進行予防方法を説明できる。			
5	歯周病の基礎知識①	歯周組織について説明ができる。 健康な歯周組織と病的な歯周組織の説明ができる。			
6	う蝕活動性試験について	う蝕活動性試験の方法を理解し体験する。			
7	歯周病の基礎知識②	歯周病の原因と分類、進行を説明できる。			
8	口腔内診査について	歯周病検査の方法を理解し説明ができる。(プロービング・動揺度)			
9	器材・器具の取り扱い	プロービング・動揺度・コンタクトポイントテストの診査について理解できる。			
10	歯面研磨・PMTC	歯面研磨・PMTCの目的・種類・使用器材・使用方法について理解ができる。			
11	マネキン訓練実習①	マネキンの使用方法を理解できる。歯周病検査の基本を理解できる。			
12	スケーラーについて	スケーラーの種類・特徴について理解し説明ができる			
13	マネキン訓練実習②	前歯部のスケーリングを理解し操作ができる			
14	超音波スケーラーについて	超音波スケーラー・エアー・スケーラーの特徴・適応症について理解できる。			
15	偶発事故について	偶発事故について理解し患者を配慮し患者にあわせたスケーリングができる。			
16	マネキン訓練実習③	前歯部のスケーリングを理解し操作ができる			
17	マネキン訓練実習④	下顎臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる			
18	マネキン訓練実習⑤	上顎臼歯部のスケーリングを理解し操作ができる			
19	実技試験①	探針操作・プロービング・動揺度・コンタクトポイントの操作ができる。			
20	実技試験②	前歯部・臼歯部のスケーリングの操作ができる			

担当科目	歯科予防処置論Ⅱ		講師	佐々木眞理子・鬼塚由希子			
時間(単位)数	3 単位	90 時間	実施時期	2 学年	前期	後期	
一般目標(GIO)	歯周病予防・治療におけるスケーリング技術を習得する 歯面研磨・PMTC・超音波スケーラー・シャープニングの基礎知識・技術を習得する う蝕予防の基礎知識を学び、フッ化物歯面塗布法・鍍銀法・予防填塞の技術・知識を習得し、 患者の口腔内に適したう蝕活動性試験を行い、患者指導を行える知識を習得する						
授業概要	相互実習を通して基本的術式(歯面研磨・スケーリング・PMTC)を理解・習得する う蝕活動性試験・フッ化物歯面塗布法では、術式を習得し患者への指導へ繋げる						
学習方法	講義・実習		成績評価の方法		筆記試験	20%	
					実技試験	70%	
					出席・レポート	10%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論 歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」						
実務経験	医院・歯科医院での業務経験あり						
授業計画							
No	授業項目	到達目標(SBOs)					
1	問診・偶発事故	器材・知識と基本操作、必要性について習得し、診療中に起こりやすい事故・対応について理解する					
2	マネキン訓練実習	マネキンで諸検査・スケーリング・歯面研磨・貼薬の操作を習得する					
3	スケーリング実技試験	スケーリング部位別操作法に則り、マネキン上でのスケーリング・諸検査の実技試験を行う					
4	シャープニング	シャープニングの必要性を理解し、操作・応用を習得する					
5	相互実習1	問診・口腔内諸検査(探針・EPP・CPT・動揺度)の基本操作が出来る					
6	相互実習2	口腔内全体の歯面研磨・貼薬が出来る					
7	相互実習3	上下顎前歯部のスケーリングがシクルスケーラー・キュレットスケーラーで操作出来る					
8	相互実習4	上下顎右側臼歯部のスケーリングがシクルスケーラー・キュレットスケーラーで操作出来る					
9	相互実習5	上下顎左側臼歯部のスケーリングがシクルスケーラー・キュレットスケーラーで操作出来る					
10	超音波スケーラー・エアースケーラー	超音波スケーラーとエアースケーラーの原理・特徴・基本操作・注意点を理解する					
11	相互実習6	顎模型上で超音波スケーラーの基本操作を習得する					
12	相互実習7	超音波スケーラーで前歯部の基本操作を習得する					
13	相互実習8	超音波スケーラーで上下左右臼歯部の基本操作を習得する					
14	相互実習9	超音波スケーラーで部位別のスケーリング操作・バキューム操作を習得する					
15	う蝕予防処置	う蝕予防処置について理解出来る					
16	う蝕活動性試験	各種活動性試験について理解し、患者に合った指導を理解出来る					
17	フッ化物の概要・応用 鍍銀法	フッ化物の概要について理解し、塗布法の種類・応用・薬剤・中毒量について理解する					
18	う蝕予防処置 (小窩裂溝填塞法1)	小窩裂溝填塞法の概要について理解し、小窩裂溝填塞法(化学重合)の操作が出来る					
19	う蝕予防処置 (小窩裂溝填塞法2)	小窩裂溝填塞法(光重合)の操作が出来る					
20	相互実習10	小窩裂溝填塞法(光重合)の操作を理解し、相互実習が出来る					
21	相互実習11	フッ化物歯面塗布(トレー法・イオン導入法)の相互実習を行う					
22	相互実習12	PMTCの操作・手順を理解し、相互実習が出来る					
23	相互実習13	口腔全体の状況を把握し、指示された部位の諸検査・スケーリング・歯面研磨・貼薬が出来る					
24	総合実技試験	スケーリング相互実習の一連の流れ・操作についての試験を行う					

担当科目	歯科予防処置論Ⅱ		講師	佐々木眞理子・鬼塚由希子		
時間(単位)数		時間数	実施時期	2	学年	前期 後期
一般目標(GIO)	う蝕予防の基礎知識を学び、フッ化物歯面塗布法・鍍銀法・予防填塞の知識・技術を習得し、患者の口腔内に適したう蝕活動性試験を行い、患者指導が行える知識を習得する					
授業概要	相互実習を通し、フッ化物塗布法・鍍銀法・予防填塞の基本的術式を習得する う蝕予防処置法では、活動性試験の種類・術式を習得し、患者への指導へ繋げる					
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	20%	
				実技試験	70%	
				出席・レポート	10%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論 歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」					
実務経験	医院・歯科医院での業務経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	う蝕予防処置	う蝕予防処置について理解出来る				
2	う蝕活動性試験	各種活動性試験について理解し、患者に合った指導を理解出来る				
3	フッ化物の概要・応用 鍍銀法	フッ化物の概要について理解し、塗布法の種類・応用・薬剤・中毒量について理解する				
4	う蝕予防処置 (小窩裂溝填塞法1)	小窩裂溝填塞法の概要について理解し、小窩裂溝填塞法(化学重合)の操作が出来る				
5	う蝕予防処置 (小窩裂溝填塞法2)	小窩裂溝填塞法(光重合)の操作が出来る				
6	相互実習10	小窩裂溝填塞法(光重合)の操作を理解し、相互実習が出来る				
7	相互実習11	フッ化物歯面塗布(トレー法・イオン導入法)の相互実習を行う				
8	相互実習12	PMTCの操作・手順を理解し、相互実習が出来る				
9	中間試験・解説	前期習得した項目について中間試験を行う。また、試験問題の解答・解説も併せて行う				
10	期末試験・解説	後期習得した項目について本試験を行う。また、試験問題の解答・解説も併せて行う。				
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						

担当科目	歯科予防処置論Ⅲ		講師	佐々木眞理子	鬼塚由希子
時間(単位)数	3単位	90時間	実施時期	3 学年	前期 後期
一般目標(GIO)	臨床実習Ⅰで学んだ知識・技術を基に臨床現場を意識した相互実習を行う。総合実技試験を行う。				
授業概要	歯科衛生士の業務であるう蝕予防処置と予防的歯石除去法の技術を習得する。歯周病・う蝕を予防し人々の歯・口腔の健康を維持増進させるために専門的な知識・技術および態度を習得する。				
学習方法	講義・実習	成績評価の方法		筆記試験	60%
				実技試験	30%
				出席・レポート	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			医歯薬出版	
参考図書	最新歯科衛生士教本「歯周病学」「保健生態学」			医歯薬出版	
実務経験	病院・歯科医院での臨床経験あり。				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	相互実習①	口腔内診査がスムーズに行える。(歯周組織の検査)			
2	相互実習②	前歯部のスクレーリングが行える。(シックルスクレーラー)			
3	相互実習③	臼歯部のスクレーリングが行える。(シックルスクレーラー)			
4	相互実習④	前歯部のスクレーリングが行える。(キュレットスクレーラー)			
5	相互実習⑤	臼歯部のスクレーリングが行える。(キュレットスクレーラー)			
6	相互実習⑥	超音波スクレーラーを操作する。			
7	メンテナンスについて	歯周病におけるメンテナンスの目的を説明できる。			
8		歯周病のリスクとメンテナンスの必要性を説明できる。			
9		メンテナンス時の評価項目と方法、処置を説明できる。			
10	国家試験対策①	講義			
11	国家試験対策②	練習問題			
12	国家試験対策③	練習問題			
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	歯科保健指導論 I		講師	野原早苗 橋本綾乃	
時間(単位)数	3単位	75時間	実施時期	1学年	前期 後期
一般目標(GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授業概要	歯科保健指導や口腔清掃指導に必要な知識や技術を講義、実習を通して学ぶ。臨地実習の準備のため、実習に必要な媒体作製を行う。				
学習方法	講義、実習その他	成績評価の方法		筆記試験	80%
				実技試験	10%
				出席率・レポート他	10%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版				
実務経験	歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	歯科保健指導の概要	歯科保健指導の必要性、定義、歯科衛生士法における位置づけについて説明できる。			
2	健康の概念	健康の考え方、日本の健康推進施策について説明できる。			
3	予防の概念	疾病の予防レベルを3段階5つの予防手段に分けて説明できる。			
4	口腔の基礎知識	歯・歯周組織、口腔の構造と機能を説明できる。摂食嚥下の仕組みを概説できる。			
5	口腔清掃方法	歯ブラシの種類と特徴を説明できる。			
6		ブラッシングの方法の特徴を理解し、実施できる。			
7		歯ブラシ以外の清掃用品の種類と特徴、適応を説明できる。			
8		歯ブラシ以外の清掃用品を選択し、操作できる。			
9		歯磨剤、洗口剤・洗口液、保湿剤の特徴と使用方法を説明できる。			
10	口腔清掃実習	自分の口腔清掃状態を把握できる。			
11		口腔清掃法の術式を実践できる。			
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入	妊産婦期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
13		乳児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
14		幼児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
15		学齢期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
16		青年期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
17		成人期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
18		老年期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動、口腔衛生指導、食生活指導について説明できる。			
19	分析のためのデータ	口腔清掃や歯周疾患、う蝕の指標を説明できる。			
20	教育媒体の作製	媒体作製、発表を実施する。			

担当科目	歯科保健指導論Ⅱ		講師	野原早苗 橋本綾乃	
時間(単位)数	2単位	60時間	実施時期	2学年	前期 後期
一般目標(GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授業概要	各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導行動を学ぶ。保育所、幼稚園(幼児)の健康教育活動(臨地実習)へ向けて練習、リハーサルを行う。ブラッシング指導実習を行う。				
学習方法	講義、実習その他		成績評価の方法	筆記試験	80%
				出席率・レポート他	20%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
実務経験	歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	ライフステージにおける 歯科衛生介入①	妊産婦期の一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。			
2		妊産婦期のプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる。			
3	ライフステージにおける 歯科衛生介入②	新生児・乳児・幼児期の一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。			
4		新生児・乳児・幼児期のプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる。			
5	ライフステージにおける 歯科衛生介入③	学齢・青年期の一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。			
6		学齢・青年期のプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる。			
7	ライフステージにおける 歯科衛生介入④	成人・老年期の一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。			
8		成人・老年期のプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる。			
9	ライフステージにおける 歯科衛生介入⑤	要介護高齢者・障がい者の一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。			
10		要介護高齢者・障がい者のプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる。			
11	歯周疾患の把握と評価	歯周疾患の指数を説明できる。			
12	地域歯科保健活動	地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要、歯科衛生士の役割を説明できる。			
13	相互実習	口腔衛生状態を説明できる。口腔清掃方法の選択と指導ができる。			
14	幼児への歯科保健教育	保育所、幼稚園(幼児)を対象とした健康教育ができる。			
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	歯科保健指導論Ⅲ		講師	野原早苗 橋本綾乃	
時間(単位)数	2単位	60時間	実施時期	3学年	前期 後期
一般目標(GIO)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
授業概要	総合的実習を行い、対象者に適した専門的知識、技術および態度を習得する。 復習、練習問題を行い、卒業試験、国家試験へ向けて見直しをしながら、理解していく。				
学習方法	講義、実習その他		成績評価の方法	期末試験	100%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
実務経験	歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	総合的実習	対象者の情報を収集できる。			
2		対象者に適した口腔衛生指導ができる。			
3	症例検討	症例に適した歯科衛生計画を立案できる。			
4	歯科保健指導論復習	卒業試験、国家試験へ向けて知識の再確認、整理ができる。			
5	練習問題	問題を解き、知識を習得する。			
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

専門分野

担当科目	栄養指導		講師	里見 節子	
時間(単位)数	1単位	15 時間	実施時期	1 学年	後期
一般目標(GIO)	日本人の栄養摂取状況や問題点を知り、栄養指導の必要性を理解する。 ライフステージ別の食生活の特徴を把握する。 食品の機能性を知り、健康づくりのための食事計画の進め方を学習する				
授業概要	国民健康・栄養調査の結果から国民の栄養に関する現状や課題を考える。国の健康施策である健康日本21(第二次)、食育推進基本計画、食生活指針から浮き彫りとなる健康づくりのための食事を理解する。講義内容からの小テストを実施。 実習として、自身の食習慣や食事内容を振り返り、評価を行う。えん下をしやすくする目的での飲み物のとろみ付けを体験する。				
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	期末試験	70%
				講義時間内の小テスト	24%
				レポート	6%
教科書	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」				医歯薬出版
実務経験	離乳食、幼児食の栄養相談。糖尿病重症化予防食支援。特定保健指導。一般栄養相談				
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	日本人の栄養摂取状況	毎年実施されている栄養調査の結果から栄養指導の必要性について理解する			
2	健康日本21(第二次)	国の健康施策のうち、食生活に関わる内容と評価を知る			
3	食品の表示	健康づくりに関する食品の表示について、種類や意味を理解する			
4	食育基本法	食育基本法と、食育推進基本計画の内容や評価を理解し、栄養指導の必要性を知る			
5	食事バランスガイド	食事の選択を示す際のツールとして国が作成した食事バランスガイドについて説明できる			
6	成長期における栄養	離乳食、幼児・学童・思春期の食生活の内容や特徴を理解する			
7	成人期における栄養	成人期、妊娠・授乳期における食生活の配慮すべき点を理解する			
8	高齢期における栄養	高齢期の特徴、また摂食えん下機能が低下した際に対応する食形態を理解する			
9	食品の機能性	食品の3つの機能性や味の相互作用について理解する			
10	四群点数法	食品を栄養的特徴によって4つに分類した四群点数法を理解する			
11	食生活指針	国が決めた健康づくりの具体的な目標を挙げた食生活指針の内容を知る			
12	食事記録	自身の食事を振り返り問題点を知り、改善策を考える			
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	歯科診療補助論 I		講師	清水恵里菜	大森理乃 他
時間(単位)数	3単位	90 時間	実施時期	1 学年	前期 後期
一般目標(GIO)	歯科診療補助の概要を理解し、安全で円滑な歯科診療が行えるよう、専門的な知識・技術及び態度を習得する。				
授業概要	医療安全及び感染予防の知識を身に付け実施出来る。 診療に必要な器具や器材の知識と取扱いを理解し習得する。 円滑に歯科診療補助が行えるよう共同動作を習得する。				
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	60%
				実技試験	20%
				出席・レポート	20%
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」 最新歯科衛生士教本「歯科材料」「歯科器材」				
実務経験	歯科医院での臨床経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	歯科診療補助の概念	歯科診療補助の業務内容を理解できる。			
2	歯科診療室の基礎知識	歯科診療室の環境や設備における基礎を習得する。			
3	医療安全	医療安全の概念とその対策を説明できる。			
4	感染予防①	標準予防策を理解し、手指消毒・グローブ・マスク・ゴーグルの装着が実施できる。			
5	衛生材料①	歯科用器具の把持法・取扱いを習得する。			
6	衛生材料②	歯科で使用する衛生材料を作製する。			
7	感染予防②	滅菌、消毒、洗浄の方法について説明ができる。			
8	共同動作①	診療台やその周辺機器の取扱いを理解できる。ポジショニング・ライティングを理解し習得する。			
9	共同動作②	フォーハンドシステムを理解し、習得する。			
10	印象材について	印象材の特徴、種類、用途を理解できる。			
11	歯科用石膏について	歯科用石膏の特徴、種類、用途を理解できる。			
12	アルジネート印象材取扱い①	アルジネート印象材の練和法、管理法を習得する。			
13	アルジネート印象材取扱い②	アルジネート印象採得を習得する。			
14	模型の作製	アルジネート印象採得後、歯科用石膏で模型作製を習得する。			
15	相互実習	アルジネート印象採得を相互にてできる。			
16	合着材・接着材	合着材・接着材の種類、用途、特徴を理解し取扱いを習得する。			
17	仮封材・仮着材	仮封材・仮着材の種類、用途、特徴を理解し取扱いを習得する。			
18	ラバーダム防湿	ラバーダム防湿の目的と器具の用途について理解できる。			
19	マネキン実習	マネキンにてラバーダム防湿の手順を習得する。			
20	実技試験	衛生材料の作製・アルジネート印象採得・合着材練和ができる。			

担当科目	歯科診療補助Ⅱ		講師	清水恵里菜	大森理乃	他
時間(単位)数	2単位	51 時間	実施時期	2 学年	前期	後期
一般目標(GIO)	<p>歯科診療補助の概要を理解し、安全で円滑な歯科診療が行えるよう、専門的な知識・技術及び態度を習得する。</p> <p>相互実習を通して、臨床の現場で対応出来る知識・技術を習得する。</p>					
授業概要	<p>医療安全及び感染予防の知識を身に付け実施出来る。</p> <p>診療に必要な器具や器材の知識と取扱いを理解し習得する。</p> <p>円滑に歯科診療補助が行えるよう共同動作を習得する。</p>					
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	筆記試験	60%	
				実技試験	20%	
				出席・レポート	20%	
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」					
	最新歯科衛生士教本「歯科材料」「歯科器材」					
実務経験	歯科医院での臨床経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	ラバーダム防湿(マネキン)	ラバーダム防湿ができる。				
2	共同動作	ポジショニング・ライティングができる。器具の受け渡しができる。				
3	相互実習① (ラバーダム防湿)	相互にてラバーダム防湿の技術を習得する。				
4	相互実習② (ラバーダム防湿)	相互にてラバーダム防湿ができる。				
5	実技試験 (ラバーダム防湿)	相互にてラバーダム防湿ができる。				
6	歯科診療における基礎知識	歯科診療における受診の流れを理解し、小児・高齢者・障がい者の患者対応を習得する。				
7	歯肉圧排・隔壁	器具・器材・薬剤の名称や用途を習得する。				
8	保存修復時の診療補助 (直・間)	保存修復時の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
9	歯内療法時の診療補助 (抜髄・根治・根充)	歯内療法時の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
10	補綴治療時の診療補助	補綴治療時の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
11	口腔外科時の診療補助	口腔外科時の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
12	実技試験①	臨床実習Ⅰにむけて各治療にあった器材の準備ができる。				
13	実技試験②	臨床実習Ⅰにむけて各治療にあった器材の準備ができる。				
14	歯科麻酔・矯正・小児の 診療補助	歯科麻酔、矯正、小児治療時の治療内容、器材を理解し、診療補助を習得する。				
15	漂白法	オフィスブリーチについて理解し、習得する。				
16	暫冠被覆冠作製・仮着材	暫間被覆冠の用途と仮着材の種類を理解し製作過程を習得する。				
17	暫冠被覆冠作製・仮着材	暫間被覆冠の用途と仮着材の種類を理解し作製できる。				

担当科目	臨床検査法		講師	井上 孝	
時間(単位)数	1単位	24 時間	実施時期	2 学年	後期
一般目標(GIO)	医療は臨床検査から始まり、検査結果に基づいて疾病の診断を行い、診断に基づいて治療を行う。検査の解釈を誤れば、疾病は治癒ではなく慢性化、場合によっては死亡などの転帰をたどることになる。つまり、臨床検査とは医療の根幹をなす重要な医療行為である。本講義においては臨床検査の意義を理解するとともに、歯科診療に関係の深い一般的な臨床検査項目を中心にその方法と結果の解釈を学ぶ。				
授業概要	教科書をベースに、配布資料、板書、臨床・基礎スライドを用いて、実際の臨床でどのように臨床検査が行われているのかを理解する。				
学習方法	講義		成績評価の方法	筆記試験	
教科書	最新歯科衛生士教本「臨床検査」医歯薬出版				
実務経験	東京歯科大学(臨床検査病理学講座)				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	臨床検査概論1	疾病を理解し、検査の目的、生理検査と検体検査を説明できる。			
2	臨床検査概論2	病態を解析することで、検査値の変動の理由を説明できる。			
3	血液検査	採血法、血算、貧血、炎症などの検査を説明できる。			
4	血液凝固検査	一次止血機構及び二次止血機構の検査、線溶系検査を説明できる。			
5	生化学検査他	肝機能、腎機能、糖尿病等および免疫検査、血清検査等を説明できる。			
6	病理検査他	細胞診、病理組織診などの病理検査を説明できる。			
7	口腔領域の検査1	口臭検査、味覚異常検査、歯科金属アレルギー検査等を説明できる。			
8	口腔領域の検査2	粘膜・唾液検査、摂食嚥下検査等を説明できる。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	社会保険		講師	上條英之		
時間(単位)数	1単位	15 時間	実施時期	2 学年	前期	○後期
一般目標(GIO)	医療保険、介護保険、年金、雇用保険、労災疾病保険について制度の概要と仕組みを理解する。生活保護、社会福祉制度について、制度の仕組みを理解する。					
授業概要	社会保障制度の概要と社会保険、社会福祉制度について講義により、理解し知識を得る					
学習方法	講義		成績評価の方法	筆記試験(100%)		
教科書	歯科保健医療に関連する社会保障制度と関係法規(上條英之著、株式会社アナトーム社)					
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要と仕組みが説明できる				
2	医療保険制度の概要	国民医療費と医療保険制度の概要が説明できる。				
3	医療保険制度と仕組み	医療保険の保険者、加入者、医療費の支払の仕組み、高額療養費制度、患者負担の仕組みを説明できる。				
4	介護保険制度	介護保険制度の保険者、加入者、保険料、公費の負担の仕組みが説明できる。				
5	医療と介護の連携	医療計画、地域包括ケア、病床機能報告制度、その他の医療介護の連携の仕組みが説明できる。				
6	年金	国民年金、厚生年金の保険者と加入者、運営仕組み及びマクロ経済スライドの仕組みが説明できる。				
7	労働保険	雇用保険、労働者災害補償保険の保険者、被保険者、給付の仕組みが説明できる。				
8	生活保護、社会福祉	生活保護での原理、原則、扶助の種類、社会福祉の種類と仕組みが説明できる。				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

担当科目	一般教養 華道		講師	三 賢 洋 子		
時間(単位)数	1 単位	15 時間	実施時期	1 学年	前期	後期
一般目標(GIO)						
授業概要	池坊の精神をお伝えしながら 自由な発想と感覚による表現 習いけはなと生けかきをする					
学習方法				成績評価の方法		
教科書						
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	自由花	自然性	基本	(花枝による)		
2	自由花	自然性	基本の仕掛け			
3	自由花	自然性	"	応用していき		
4	自由花	意匠性	自由な表現			
5	自由花	意匠性	"	発想と感覚を		
6	自由花	意匠性	"			
7	自由花	意匠性	"			
8	自由花	意匠性	総括して作品の仕上げ			
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

担当科目	書道		講師	三浦 乃子	
時間(単位)数	1単位	15時間	実施時期	1学年	前期 後期
一般目標(GIO)	日本の伝統芸術の一つである毛筆書を習得することに依り、その奥深さを再認識し、より身近なものにし、その過程で、集中力、繊細な観察力を養う				
授業概要	授業の大半を書く事に集中し、費やし、学ぶ				
学習方法	ボードに紙(方眼紙)を張り、書き方(始筆、終筆、ハネ等)を説明後、順次個別に見て時に手を持ち指導する	成績評価の方法		四字熟語、楷、行2書体、自分の名前(半紙)計3枚の作品を採点(100点満点)、他授業態度、出欠状況を加味	
教科書	基本自筆手本にて指導(参考字典類・三体字典、五體字類、他) 手本課題……大日本書芸院発行「日本書芸」月刊誌参考				
実務経験					
授業計画					
NO	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	諸説明他練習	筆、墨、硯、紙等の説明、筆使い習得の為、四字熟語「天変地異」練習			
2	四字熟語、楷書清書	四字熟語「天変地異」楷書、お清書の上提出			
3	同上 行書練習	四字熟語「天変地異」行書、書き方説明、練習			
4	同上 清書	四字熟語「天変地異」行書、お清書の上提出			
5	実用書の説明、練習	実用書「生活の中の書」の一環として自分の名前を練習(半紙名前手本配布)			
6	自分の名前 清書	上記手本(自分の名前、楷、行いずれか)を清書し、提出			
7	小筆を用いて	実用書(祝儀袋、芳名簿、他署名等)想定して練習(フルネーム楷行手本配布)			
8	同上	実際に祝儀袋等に記名、用途説明 ◎書を楽しむ→色紙に書く			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	コンピューター		講師	板倉紀代子	
時間(単位)数	8単位	24時間	実施時期	1学年	前期
一般目標(GIO)	パソコン操作の基礎を学習し、社会に出て業務が円滑に行えるように実習能力を養う。				
授業概要	テキストを使い、ワード・エクセル・パワーポイントの基礎を実習する。 初回に習得レベルのアンケートを取り、なるべくレベルにあった実習問題に取り組めるようにする。				
学習方法	講義・実習		成績評価の方法	授業内(課題提出) 40% 出欠・授業態度 10% 期末試験(実技) 50%	
教科書	情報リテラシーOffice2013(Windows8対応) 実教出版 他に、参考資料や実習問題はコピーで対応する				
実務経験	看護専門学校、福祉専門学校で講義経験あり				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	ワード 入力・文書作成	長文の一括入力(効率の良い入力)の学習と、ビジネス文書のルールの理解と必要な機能の習得			
2	ワード 表の作成	簡単な表から応用の表まで、表作成に必要な機能(罫線機能)を習得する			
3	ワード 図形の作成	図の作成(地図の作成を含む)、イラスト・写真の挿入と編集に関する機能を習得する(4回目前半まで)			
4	ワード チラシ・長文作成	長文作成に必要な機能(ヘッダ・フッタ、目次、ページ番号付など)習得と、段組の文書を作成する			
5	ワード 総括	テキストにあるワードの機能の総括と、診療券を作成する(名刺作成機能の習得)			
6	エクセル データベース	データベース機能(並び替えと抽出の仕方)を習得する。残りの時間で計算機能を学習する。			
7	エクセル 関数とグラフ化	前回の後半から、関数とグラフ機能を習得する			
8	パワーポイント	パワーポイントを使い、基本的なプレゼンテーションに使う機能を習得する			
9		※ 3回目の実習内容は4回目の前半まで。4回目の内容は同回の後半に学習する。			
10		※ ワード・エクセル・パワーポイントで使う共通した機能はワードで学習します。			
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	看護概論		講師	志村 央子(他、湘南平塚看護専門学校教員)		
時間(単位)数	2単位	30時間	実施時期	2	学年	前期
一般目標(GIO)	看護の概念を知り、保健・医療・福祉における看護の機能と役割について理解を深める。 看護の知識と技術の基礎を学び、全身管理能力を身につける。 歯科保健における他職種連携と協働の重要性を理解する。					
授業概要	看護の概念、機能と役割について講義を通して理解を深める。 看護師、歯科衛生士に必要な共通知識、技術(バイタルサイン測定、摂食嚥下、診療の補助業務など)を演習を通して習得する。 地域包括ケアシステムの理解と実例を基に、地域医療活動における歯科衛生士の役割を学ぶ。					
学習方法	講義・演習		成績評価の方法		演習出席点 20% レポート 10% 筆記試験 70%	
教科書	歯科衛生士のための看護学大意(第3版) 医歯薬出版					
実務経験	病院勤務					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	病院における歯科衛生士の役割 看護の概念	病院における歯科衛生士の役割を知ることができる。及び看護の概念を知ることができる。 看護の概念を知ることができる。				
2	看護技術の基礎① バイタルサイン測定演習 コミュニケーション技術	バイタルサイン測定の実際を体験することができる。また、正常値が理解できる。 コミュニケーション技術の在り方について、理解することができる。				
3	看護技術の基礎② 摂食に関わる援助	*食事サポーター講習会と同じ内容(テキスト、バッジ込)の許可をいただきました。 口から食べる事の意義を理解し、安全な食事摂取の方法が実践できる。				
4	看護技術の基礎③ 与薬、電法、吸引、吸入	与薬、電法、吸引、吸入の目的と原理、原則がわかる。				
5	歯科衛生士に必要な看護実務① ・観察、記録、報告 ・病院外来での業務 ・入院を要する患者の看護 ・感染対策 ・洗浄、消毒、滅菌 ・医療安全対策	観察、記録、報告の目的と方法がわかる。 外来、病棟での患者の特徴及び看護の役割がわかる。 感染対策、洗浄・消毒・滅菌、医療安全対策の原則がわかる。				
6	歯科衛生士に必要な看護実務② 採血演習	採血の原理・原則がわかり、採血の実際が体験できる。				
7	歯科衛生士に必要な看護実務③ 救急時の看護演習 点滴の管理演習	一時救命処置の実際が体験できる。 点滴管理の方法がわかり、体験できる。				
8	地域医療活動における歯科衛生士の役割 まとめ	地域包括ケアシステムについて理解でき、地域での歯科衛生士の役割が理解できる。 講義、演習を通して、看護と歯科衛生士の共通点と相違点を考えることができる。				

担当科目	秘書実務 I (接遇マナー)			講師	黒川亜紀子
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	1学年	後期
一般目標(GIO)	現代では「医療はサービス業である」と定義され、サービススキルの向上が求められている。本授業では、社会人として常識であるビジネスマナーの基本及び、患者様に求められる人材のスキルを身に付けることを目標とする。				
授業概要	ビジネスマナーの必要性と、サービススキルを身に付けるために、座学だけでなく、演習、ワークを取り入れることで、「わかる」から「できる」を目指した内容で行う。本授業はビジネスマナーを取得するためにスーツ着用で行う。				
学習方法	講義、演習、ワーク		成績評価の方法	筆記試験 80% 実技試験 20% (身だしなみ減点有)	
教科書	指定はなし。適宜プリントの配布があるため、ファイル及びノート持参のこと				
実務経験	なし				

授業計画

No	授業項目	達成目標(SBOs)
1	求められる人物とは	歯科医院を取り巻く状況と新人に求められる人物像が理解できる
2	医療秘書の役割	スタッフの心得、マナーの重要性を理解することができる
3	接遇マナー基本 1	好感を持たれる挨拶、身だしなみ、表情、立ち居振る舞いができる
4	接遇マナー基本 2	第一印象の重要性を理解することができる
5	自分自身について	自分の長所短所を知り、仕事や対人関係に役立てる方法を知る
6	察する事の重要性	感性を生かすワークを通じて患者様の非言語を読み解けるようになる
7	ホスピタリティマインド 1	「サービス」と「ホスピタリティ」の違いを理解することができる
8	ホスピタリティマインド 2	患者様へのホスピタリティを実施するための段階を理解することができる
9	正しい言葉使い 1	敬語の使いわけ(尊敬語・謙譲語・丁寧語)を理解できる
10	正しい言葉使い 2	好感度の高い相手に合わせた話し方を身に付けることができる
11	正しい言葉遣い 3	患者様が安心できる「話し方」、信頼できる「聴き方」を身に付けることができる
12	職場内コミュニケーション	職場内ルールと仕事を円滑に進めるために必要なことを理解できる
13	職場内コミュニケーション	先生やスタッフとの接し方、報告・連絡・相談、仕事の進め方を理解できる
14	指示命令の受け方	先生や先輩からの指示、命令を受けた際の対応が正しく行える
15	指示命令の受け方	実技にて、実際に正しく身に付けることができる
16	振り返り・質疑応答	今回の授業のまとめ、フィードバック、試験についての説明

◎授業の進行状況などにより、順番が前後する場合があります

担当科目	秘書実務 II (接遇マナー)			講師	黒川亜紀子
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2学年	後期
一般目標(GIO)	医療業界で必要とされる人材、求められる人材を理解することができる。実習先で役に立てるビジネスマナー、及び接遇マナーを身に付けることができる。また、社会人に必要な常識や知識を理解し、体得することを目標とする。				
授業概要	ビジネスマナーの必要性和、サービススキルを身に付けるために、座学だけでなく、演習、ワークを取り入れることで、「わかる」から「できる」を目指した内容で行う。本授業はビジネスマナーを取得するためにスーツ着用で行う。				
学習方法	講義、演習、ワーク		成績評価の方法	筆記試験 80% 実技試験 20% (身だしなみ減点有)	
教科書	指定はなし。適宜プリントの配布があるため、ファイル及びノート持参のこと				
実務経験	なし				

授業計画

No	授業項目	達成目標(SBOs)
1	1年次の復習 1	挨拶、身だしなみ、立ち居振る舞いなどが身についているかの確認
2	1年次の復習 2	正しい言葉遣いの総復習。
3	仕事の進め方	効率的な仕事の進め方、PDCAサイクルを理解できる
4	電話応対 1	電話の掛け方、受け方の基本を身に付けることができる
5	電話応対 2	様々な状況での電話応対を行うことができる
6	訪問マナー	企業に訪問する際の注意点を理解し、行うことができる。
7	来客対応マナー	来客時のご案内、名刺交換、席次のマナーを体得することができる
8	企業訪問・対応 1	電話応対から始まり、訪問、来客対応を正しく行うことができる
9	企業訪問・対応 2	電話応対から始まり、訪問、来客対応を正しく行うことができる
10	企業訪問・対応 3	電話応対から始まり、訪問、来客対応を正しく行うことができる
11	文書作成	ビジネス文書を正しく作成できる。電子メール、スマホのマナーが理解できる
12	冠婚葬祭マナー 1	日本の通過儀礼、「冠」「婚」のマナーを理解することができる
13	冠婚葬祭マナー 2	日本の通過儀礼、「葬」「祭」のマナーを理解することができる
14	食事のマナー	和食、洋食を頂く際のマナーを理解し、正しく行うことができる
15	患者様の心理	患者様が言葉に出さないが求めていることとは？を理解できる
16	振り返り・質疑応答	今回の授業のまとめ、フィードバック、試験についての説明

◎授業の進行状況などにより、順番が前後する場合があります

担当科目	医療事務 I		講師	原 寿美子	
時間(単位)数	3単位	45 時間	実施時期	1 学年	後期
一般目標(GIO)	医科診療報酬の各項目を理解し、正しい算定による外来会計ができるようにする。				
授業概要	保険診療のルールと診療報酬算定の基礎を学ぶ。				
学習方法	講義	成績評価の方法		学科試験	45%
				実技試験	45%
				出席	10%
教科書	診療報酬点数表、医療事務講座テキスト、医療事務講座基礎編、カルテ問題集、解答 (日本医療事務協会)				
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	医療保険の概要	医療保障制度を理解し、保険証の読み取り方、保険給付、一部負担金について説明できる。			
2	基本診療料	外来診療で算定する初診料・再診料を理解し、算定できる。			
3	医学管理等、在宅	「医学管理」「在宅医療」から頻度の高い項目について理解し、算定ができる。			
4	投薬①	薬剤料算定の基礎知識を理解し内服薬の算定、調剤料、処方料が算定できる。			
5	投薬②	頓服薬・外用薬等について理解し算定ができる。			
6	会計欄作成①	基本診療料～投薬まで算定練習をし理解を深める。			
7	注射①	注射料(IM,IV)について理解し算定ができる。			
8	注射②	注射料(特殊注射)について理解し算定ができる。			
9	処置①	処置料と基本診療料との関係を理解し正しい算定ができる。			
10	処置②、リハビリ	処置料・リハビリテーション料について正しい算定ができる。			
11	会計欄作成②	基本診療料～処置・リハビリまでを算定練習をし理解を深める。			
12	期末試験対策	カルテ問題集等を使用し学習してきた内容の再確認をし理解を深める。			
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	医療事務 II		講師	原 寿美子	
時間(単位)数	3単位	45 時間	実施時期	2 学年	前期
一般目標(GIO)	医科診療報酬の入院算定までを学習し、正しい算定による入院会計ができるようにするとともに、医療事務検定試験の合格を目指す。				
授業概要	医療事務従事者として必要な知識である診療報酬の算定のしかたを演習を混じえて学ぶ。				
学習方法	講義	成績評価の方法		学科試験	45%
				実技試験	45%
				出席	10%
教科書	診療報酬点数表、医療事務講座テキスト、医療事務講座基礎編、カルテ問題集、解答 (日本医療事務協会)				
実務経験	なし				
授業計画					
No	授業項目	到達目標(SBOs)			
1	会計欄作成①	後期で学習した項目について理解を深める。			
2	処置①	処置料と処置の薬剤について正しい算定ができる。			
3	処置②、リハビリ	処置料、リハビリテーション料について正しい算定ができる。			
4	会計欄作成②	基本診療料～処置まで算定練習をし理解を深める。			
5	手術・麻酔	手術料・麻酔料について理解し算定ができる。			
6	会計欄作成③	基本診療料～検査まで算定練習をし理解を深める。			
7	画像診断	画像診断について理解し算定ができる。			
8	入院①	入院の投薬・注射の算定について外来との相違点を理解し正しく算定できる。			
9	入院②	入院の基本診療料・入院時食事療養費について理解し算定できる。			
10	会計欄作成④	入院カルテについて算定練習をし理解を深める。			
11	検定試験対策①	外来カルテ算定の復習・模擬試験			
12	検定試験対策②	模擬試験の解説・検定試験の直前対策			
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

担当科目	介護技術		講師	石川よし子		
時間(単位)数	1単位	30時間	実施時期	2 学年	前期	後期
一般目標(GIO)	介護を必要とする人の理解から、生活支援技術の基礎的技術知識・態度を習得する。その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた技術を習得					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの視点から、適切な支援技術を考えた実習内容とする ・介護技術において、安全・安心・安心に配慮した技術と要介護の心理に配慮したコミュニケーション技術を理解する。 					
学習方法	講義、実習		成績評価の方法	筆記試験 60% 実技試験 30% 出席・レポート 10%		
教科書	社会福祉学習双書 介護概論 (社)全国社会福祉協議会					
実務経験	訪問系介護経験あり					
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	介護とは	介護を取り巻く状況・介護の活動の場を知る。				
2	インスタミア	経験するとのできない高齢者に時的且つバリエーションに変身することにより				
3	食事の介護	食事の意義と目的を理解し、食事介助の支援が理解する <small>高齢者の世界を体験する</small>				
4	移動・移乗介護	生活の質(QOL)の維持向上と、二次的障害の予防と移動・移乗の支援を				
5	衣服の着脱の介護	自立に向けて身につく介護の基本と支援方法を理解する <small>理解する</small>				
6	コミュニケーション技術	利用者本人と利用者を中心としたまわりの人々や利用者支援に揚がる				
7	実技試験	診察台から車椅子への移乗が <small>多くの専門職とのコミュニケーションを</small>				
8	実技試験	できる <small>理解する</small>				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

担当科目	課題研究		講師	佐々木真理子 他		
時間(単位)数	2単位	60時間	実施時期	3 学年	前期	後期
一般目標(GIO)	3年間学習した成果を集大成するために研究テーマを設定し発表する。					
授業概要	自分自身で研究テーマを設定し研究を進め論文にまとめ発表する。 身近な問題を見つけ自分で解決する。					
学習方法	論文作成 発表(パワーポイント)作成	成績評価の方法		レポート	60%	
				発表	30%	
				出席点	10%	
教科書						
参考図書						
実務経験						
授業計画						
No	授業項目	到達目標(SBOs)				
1	計画立案	講義・実習で学んだことをもとに自分自身で研究テーマを作成する。				
2	論文の作成	一定の形式で論文にまとめる。				
3	論文の作成発表	自分自身の知識・経験を整理しパワーポイントにまとめ発表する。				
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						